



「ロングライフ住宅の実現」で、
低炭素社会へ。
私たちは、Fun to Shareに賛同しています。

AsahiKASEI

旭化成ホームズ
環境社会報告書2018

環境・社会報告書 2018
CSRの取り組み



旭化成ホームズ株式会社

東京都新宿区西新宿1-24-1
エステック情報ビル 〒160-8345

お問い合わせ先/
旭化成ホームズ株式会社
コンプライアンス・RC推進部
環境・渉外技術部 (03-3344-7116)
<http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/>

2018.9

旭化成ホームズ株式会社

Creating for Tomorrow
昨日まで世界になかったものを。

「ロングライフ住宅」が導く サステナブルな未来

AsahiKASEI 旭化成グループ

グループ
理念

私たち旭化成グループは、
世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献します。

グループ
ビジョン

「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して、
社会に新たな価値を提供していきます。

旭化成ホームズグループ CSR方針

『永く愛され続ける企業へ』

私たちは、時代のニーズを的確にとらえ研究し、新しいくらしや住まいを提案し続けてきました。その中で生まれた「ロングライフ」という言葉は、「人びとのくらしに寄り添い、そのニーズに応えることで、永く愛され続けること」と考えています。

私たちは、商品・サービスを通じて快適な生活を将来にわたって約束することが社会的責任と考え、バリューチェーンを含む事業活動全体において、皆様の期待に応じて信頼される存在でありたいと願っています。

私たちは、人びとに必要とされ、感謝され、愛され続ける企業を目指します。

1. 事業を通じた社会への貢献

「ロングライフ」を軸とした“くらし”や“住まい”に関わる様々な商品やサービスを通じて、人びとの安全・安心を守り持続可能な社会の形成に貢献します。

2. 誠実な業務遂行

法令及び社会的な規範を含む企業倫理を順守し、誠実な姿勢で責任を持って業務を遂行します。

3. 人権の尊重

事業に関わるすべての人びとの人権を尊重し、あらゆる差別を認めません。

4. 環境への配慮

事業活動において環境に対する配慮を行うとともに、顧客や地域社会と共に緑の創出を推進することによって豊かな環境づくりを行います。

5. 労働慣行及び労働安全

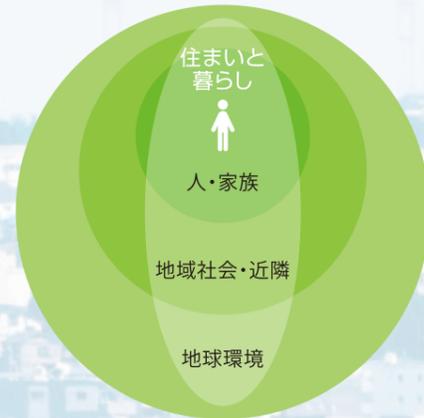
多様な人財が活躍できる公正で公平な雇用関係を維持し、安全で健康的な、働きがいのある職場づくりを目指します。

6. 社会とのコミュニケーション

情報開示を含む社会とのコミュニケーションを促進し、当社の知識や経験を活かした社会貢献活動を積極的に行います。

旭化成ホームズグループ 環境理念

私たちは「人・家族」「地域社会・近隣」
「地球環境」を大切に
住まいと暮らしの提供を通じて
持続可能な社会を目指します。



旭化成ホームズグループ 環境方針

ロングライフ住宅から未来世代へ貢献します

1. サステナブルな都市の住まいの実現

私たちは、すべての住まいの省エネルギー性能を高め、より環境に貢献する住まいの提供に努めます。
また、企業活動による環境負荷を削減することによって環境にやさしい企業を目指します。

2. 環境を活かした快適な都市の暮らしの提供

私たちは、環境や自然を住まいや暮らしに取り入れることや、家族の暮らし方の新しい提案を行うことで、快適な暮らしの実現を目指します。

3. 環境・社会との調和

私たちは、地球環境を守るための活動を積極的に行うと共に、社内及び社会に対して環境保護の重要性を啓発し、環境保全活動の輪を広げます。

■ 編集方針

本報告書は旭化成ホームズ株式会社および関連会社の環境活動と一部の社会活動についてステークホルダーの皆様に広くご理解いただくことを目的としています。
報告テーマの選定にあたっては、「当社が設定している環境・社会上の重要な課題」を前提としています。

■ 参考とするガイドライン等

旭化成株式会社「旭化成レポート2018」
環境省「環境報告ガイドライン」
GRIスタンダード

■ 対象期間

2017年度(2017年4月～2018年3月)
なお定性的な情報に関しては、2018年4月～7月の情報についても一部掲載しています。

■ 想定している読者対象

お客様・お取引先・地域社会・行政・社員・NGO・NPOなど
ステークホルダーの皆様

■ 対象報告範囲

旭化成ホームズグループ全体および主要な材料調達先(旭化成建材)について報告しています。グループの詳細については10ページをご覧ください。

(旭化成ホームズグループ会社)

- 旭化成ホームズ(株)
- 旭化成不動産レジデンス(株)
- 旭化成リフォーム(株)
- 旭化成設計(株)
- 旭化成住工(株)
- 旭化成住宅建設(株)
- 旭化成ライフライン(株)
- 旭化成ホームズフィナンシャル(株)
- AJEX(株)
- 旭化成ホームズ少額短期保険(株)
- 旭化成不動産コミュニティ(株)
- 旭化成賃貸サポート(株)
- AR建設(株)
- 旭化成リモデリング(株)

■ WEBサイトについて

より詳細な報告や継続的な環境・社会活動についてはWEBサイトに記載しています。併せてご覧ください。
http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment_index.html

■ お問い合わせ先

旭化成ホームズ株式会社 コンプライアンス・RC推進部
環境・渉外技術部(03-3344-7116)

Contents

旭化成ホームズグループの 環境理念・環境方針	4
Top Message	6
旭化成ホームズグループ概要	10
特集 持続可能な都市のくらしづくり	
① 進化するロングライフ住宅の取り組み	12
② 旭化成ホームズグループとSDGs	14
③ 都市の新たなコミュニティ形成 高付加価値賃貸住宅	16
④ 持続可能な都市をつくる、 ロングライフ住宅の技術	18
CSR活動に関するマネジメント	
コーポレート・ガバナンス	20
CSRの取り組み	21
環境に関する取り組み	
環境目標と実績	24
脱炭素社会へ向けて	26
循環型社会へ向けて	30
自然共生社会へ向けて	32
社会に関する取り組み	
お客様のために	36
より良い品質のために	38
労働安全衛生の取り組み	40
お取引先とのかかわり	41
社員とともに	42
地域・社会のために	46
独立した第三者保証	50
第三者意見報告書／第三者意見を受けて	51

持続可能な社会の形成に貢献し、 人びとに必要とされ、感謝され、

愛され続ける企業を目指します。



代表取締役社長
川畑 文俊

創業当時の志を受け継ぎ、 永く愛され続ける企業を目指します。

旭化成ホームズは1972年に創業しました。当時は、都市部への人口集中に伴う住宅難がようやく一区切りがつき始めた頃でしたが、それまでの「質よりも量」を求める社会的要請も相まって、まだまだ寿命や品質という観点からは心もとない建物が多く建てられていた時代でした。

そのような時代に事業をスタートさせた当社は、丈夫で長持ちし、年月が経過しても資産価値が下がらない、長く安心してらせる住まいを提供し、日本の住環境をより良いものに変えていくという志のもと、長期耐用住宅「ヘーベルハウス」の提供を開始しました。その想いは、創業から46年を経た現在も世代を超えて当社の信念であり続けています。

当社はこれまで、単に長持ちをする住宅の提供だけでなく、都市における暮らし方そのものの研究を続け、そこで得られた課題やニーズに対応する解決策として「災害に強い家」や「二世帯住宅」、「3階建て住宅」などをいち早く提案してきました。これらにより、都市の住まいにおける社会課題の解決に微力ながらも役立つことができたのではないかと自負しております。

1998年に宣言した「ロングライフ住宅の実現」は、そんな創業以来の想いを受け継いで深化させたものであり、建物の長寿命性やアフターサポートの充実などによって、住まい手のライフステージの変化に柔軟に対応しながら、長く安心してらせる住宅の提供を目指したものです。そのことは、大量の廃棄物を出す住宅の建て替えサイクルを長期化し、ひいては、CO₂排出量の削減をはじめとした環境負荷の低減にもつながっています。

アフターサポートにおいては、独自の60年点検システムをもとに、近年の建物だけでなく、創業当時に建てて

いただいた建物を含めて点検を実施することで、長期耐用住宅の保守に努めると同時に、ヘーベルハウスにお住まいいただくお客様との緊密な関係づくりを継続してきました。このように、建物と、そこに住まうお客様にとってのロングライフを支えるためには、新築事業とともに展開している不動産事業やリフォーム事業も、ともに欠かすことのできない重要な事業と位置付け、今後も注力してまいります。一方で、点検時のコミュニケーションの過程で、資産活用やリフォームだけでなく、庭木のお手入れから家事の担い手、介護への備えなど、さまざまな不安やご要望をお客様が抱えていらっしゃる現実も分かってきました。ロングライフ住宅の提供を標榜する当社は、それらのご要望にお応えする各種サービス体制を整え、今後も拡充していく所存です。このように何か困ったことがあれば当社へご相談いただき、できる限りそれに応えるといった、創業当時から大切にしてきたコミュニケーションやエンゲージメントをこれからも続けていくことで、永きにわたり、世の中



に必要とされ、感謝され、愛され続ける企業であることを目指します。

技術と知見を活かし、 環境課題の解決に貢献します。

断熱、省エネ、創エネを組み合わせるエネルギー収支をゼロにするZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の普及目標は、国が示したロードマップでは、2020年までに標準的な新築住宅で実現し、2030年までに新築住宅の平均で実現する、とされています。

ヘーベルハウスのZEHは、国が定めるZEH基準の断熱性能を満たす、耐久性の高い断熱材と、自然の恵みを活かした設計により、家庭のエネルギー収支をゼロ以下にすることで、環境に対してはもちろん家計にもやさしいものとなっています。すでに2階建て商品でZEH基準の断熱仕様を標準採用しており3階建て商品も今年標準化する予定です。これから新しく供給する商品のZEH比率を高めることによって、温室効果ガスの削減に貢献していきたいと考えています。

都市の戸建て住宅に多様な生物を呼び込むために、私たちが提唱している外構・植栽提案『まちもり』は、都市の限られた住宅の敷地に小さな緑を植え、そんな「ちいさな緑」をつないで街全体を「大きな森」にし、生き物たちを都市に呼び戻そうという構想です。たくさんのお客様の共感と協力をいただきながら少しずつ実現して



おり、これから本格的に普及させていきたいと考えています。

この『まちもり』計画には、旭化成富士支社の一角にある約1万㎡の環境再生ゾーン「あさひ・いのちの森」を育てるうえで得た、多くの知見が反映されています。活動開始から11年を経過したこの緑地は、生物多様性の保全を目指し、田子の浦地区本来の階層のかつ多様な緑の再生と、森とその周辺環境に生息するさまざまな生物のエコロジカルネットワークの構築を目標としています。何もなかった工場跡地に苗木を植えるところからスタートして、これまでつくり上げてきました。地域本来の植生の再生事例として専門家からも高い評価を得ているこの取り組みから得た知見を、広く社会に役立てるとともに、今後も息の長い活動を継続してまいります。

すべての社員がいきいきと働き、 能力を発揮できる職場づくりを目指します。

住まい手であるお客様が世代を超えて安心・豊かにくらし続けるためには、建物の性能だけでなく、住まい手のライフスタイルの変化に応じたさまざまなサービスを提供し続けていくことが必要です。そのためには、それらの担い手である社員一人ひとりが、その持つ力を最大限発揮し、多様な働き方を実現できるような施策が欠かせません。

日々コンプライアンスを徹底し、環境を含めた社会的責任を意識しながら、高いレベルで仕事を行うことで、お客様から評価され、感謝されるようになってほしい。それを実現するために、会社としてサポートを充実することに努めています。

そのひとつがワークライフバランスの改善です。労働時間には限りがあることを社員全員で認識し、より効率的な仕事の進め方ができるよう、改善を進めています。その根底には、仕事が残っている限りは時間を使い続ける、いわゆる「野球型」の仕事から、決まった時間内に一日の仕事を終わりにする「サッカー型」の仕事への転換を目指すという考えがあります。そこで大切なことは、当社が創業以来大切にしてきた、「チームで事にあたる」という考え方です。経験やスキルに個人差があっても、チームで事にあたればそれぞれの長所を活かし、また短所を補うことができる。それによりお客様にとっても高

いサービスを提供でき、かつ限られた時間で最高のパフォーマンスを発揮できると信じています。今後もチームが成長することで、より効率的な仕事へと進化することを目指していきます。そのうえで、オフィスに戻らずにお客様宅や建築現場で仕事が完結するようにタブレットの導入など、今後も仕事の効率化に役立つものであれば、ITをはじめとしたシステムへの投資は惜しまず取り入れていきます。

また、ダイバーシティという観点、特に女性の活躍においては、課長として活躍する女性が増えてきているなど実績は出てきていますが、まだ道半ばだと考えています。女性が男性と同様に活躍できる社会の早期実現に向け、現在実施している多様な働き方への対応や管理職への登用なども含め、積極的な活躍をサポートしていきます。

優良なストックを増やすことで 持続可能な街づくりに貢献

昨今、地震や水害などの大きな災害が立て続けに発生しており、従来は山や川に近い住宅地に被害が集中していたものが、近年では都市の住宅地が被害に遇うことも少なくありません。今後も頻度が増すと思われる異常気象や、大型の震災への不安から、住宅の防災性能に対する関心もこれまでになく高まっているように感じます。

こうした現状を受け、社会ストックの老朽化が国内で広く顕在化し、問題となっておりますが、既存住宅のうち、安全性に不安のあるものを、より安心できるものに更新していくこと、同時に優良な既存住宅の有効活用は、私たち住宅メーカーの使命のひとつだと考えています。当社はその解決策としてロングライフ住宅の提供を一層進める一方で、既存ストックの有効利用もさまざまな角度から提案を進めています。既存のヘーベルハウスをスケルトン状態に戻して販売する手法をはじめ、親世帯の逝去などによって生じた二世帯住宅の空き住戸を孫世帯が住み継ぐためのリフォームや、賃貸住戸への転用などがそれにあたります。今後も、ロングライフ住宅ならではの強みを活かした提案によって、新築・ストックを含む持続可能な街づくりに貢献してまいります。



「ロングライフ」を軸に、 持続可能な社会の形成に貢献していきます。

長期耐用住宅「ヘーベルハウス」の提供から始まった当社の事業は、「日本の住宅の質を向上させる」という軸を保ったまま、時代や社会の変遷に伴う課題・ニーズに対応する形で、その事業領域やサービスを拡充させてきました。その過程で得た技術や知見の社会への還元、社員やサプライヤーの皆様、お客様をはじめバリューチェーンを含む事業全体に関わるステークホルダーの皆様とともに永く発展し続けていくことを目指す当社の考え方は、2015年に国連で設定された「持続可能な開発目標」(SDGs:Sustainable Development Goals)*の理念にも通じるものと考えています。今後も人びとから旭化成ホームズは必要な会社だと思っただけのように、社員全員で真摯に取り組んでいきたいと考えております。

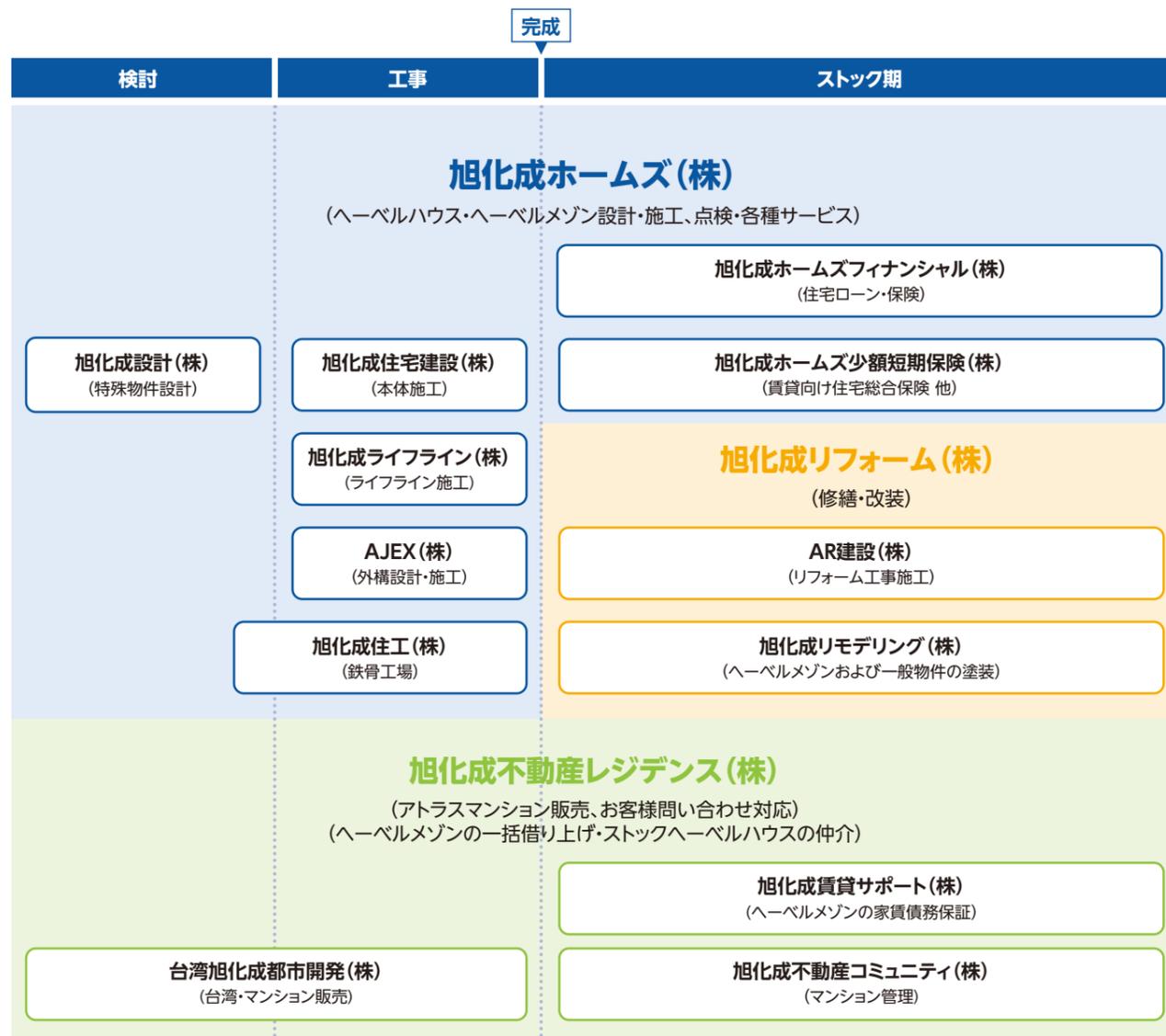
* SDGs:持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

旭化成ホームズグループ概要

旭化成ホームズは、旭化成グループの住宅事業会社として1972年に設立されて以来、長く住み継がれる「ロングライフ住宅の実現」という理念のもと、都市部を中心に「ヘーベルハウス」を供給しています。また、この理念実現のために不可欠な住まいの資産価値向上、美しい街づくり、豊かな住生活の支援という視点から多彩な関連事業を展開しています。

事業紹介

ご新築の検討から、ご入居いただいた後の長期にわたるメンテナンスやお住み替えのご相談まで、旭化成ホームズグループがサポートいたします。



会社概要

社名 旭化成ホームズ株式会社
 所在地 〒160-8345 東京都新宿区西新宿 1-24-1
 設立 昭和47年(1972年)11月
 資本金 32.5億円
 売上高 5,893億円(平成30年3月期連結)
 従業員数 7,005人(連結)

組織

事業所 営業本部……9、支店……68
 主な工場 旭化成住工株式会社 滋賀工場、厚木製造部
 旭化成建材株式会社 境工場、穂積工場、岩国工場
 (旭化成ホームズに関連する事業について報告)

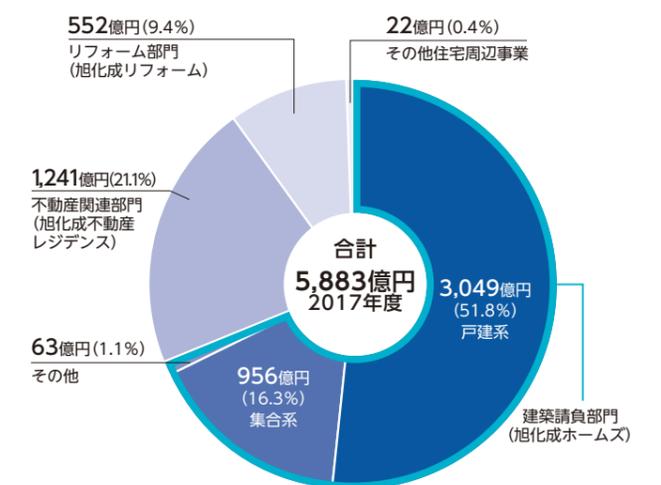
旭化成ホームズグループ売上高



主な販売地域

東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀、和歌山、岡山、広島、山口、福岡、佐賀
 (一部販売していないエリアがあります)

旭化成ホームズグループ売上内訳



研究開発

旭化成ホームズグループは、住ソフト・ハードの両面からより良い住まい・暮らし方を研究しています。

旭化成ホームズ(株)

机上の空論でなく、実邸調査を通じた現場主義から生まれる住ソフトで新しい暮らしをデザイン

くらしノバージョン研究所

- 共働き家族研究所
- 二世帯住宅研究所
- シニアライフ研究所

旭化成グループが持つ、世界トップレベルの技術開発を背景にロングライフ住宅を実現

住宅総合技術研究所

旭化成不動産レジデンス(株)

業界トップクラスのマンション建替え実績を持つ専門集団

マンション建替え研究所



くらしノバージョンフォーラム



住宅総合技術研究所

持続可能な都市の くらしづくり

旭化成ホームズは、都市型住宅のメーカーとして、都市における社会課題の解決に取り組んでいます。耐久性に優れたヘーベルハウスには長寿命=ロングライフという大きな特長があります。その特長を土台として、都市にくらす方々の生活を、より快適・持続的にしていく戦略を数多く展開しています。「家は建てたあとが大事なんだ。」という言葉のもと、これからもロングライフ住宅を発展させてまいります。

Part 1 進化するロングライフ住宅の 取り組み

旭化成ホームズグループのロングライフ住宅戦略に関わる事業の現状とこれらをご紹介します。

生活サービス

家事代行	外構・庭木	保険・金融
防犯・防災	引越・仮住い	エネルギー

長く住んでいただいているヘーベリアンの方々のライフスタイルの多様化、介護等高齢化の進展によるお困りごとの増加などによって高まっている生活支援のニーズに応えるため、さまざまなサービスを行っています。

※ヘーベリアン：ヘーベルハウスのオーナー・居住者



新築

家を守り
信頼を作る

保証延長

メンテナンス

ハウスケア

家は
建てた
あとが
大事
なんだ。

インフラ

光・通信

高速インターネット通信サービス(NTT東日本・西日本提供)を、ヘーベルハウスご入居者様専用カスタマイズして提供します。通常の通信会社では行わない情報分電盤の中の配線・設定等まで行います。

住替え

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 有料老人ホーム | サービス付き
高齢者向け住宅 |
| 都市型マンション
ATLAS | ヘーベル
Village |

旭化成グループの総合力と、不動産情報ネットワーク「ACE」の提携企業との連携により、ヘーベリアンの方々の住替えをトータルにサポートします。高齢の方々のためのサービス付き住宅も今後充実していきます。



くらしサポート

- | |
|------|
| 資産管理 |
| 介護 |
| 信託 |

ヘーベリアンの方々へのさらなるサポートとして、今後、資産管理のお手伝いなども充実させていきます。



ストックヘーベルハウス

- | | |
|-----|-------|
| 仲介 | 買取再販 |
| 賃貸化 | 空き家活用 |

ロングライフ住宅ヘーベルハウスは、長く住み続けられる優良な住宅です。旭化成不動産レジデンスは、その価値を最大限に活かし、売却や賃貸への転用などをサポートしています。

リフォーム

- | | | |
|-------|--------|---------|
| キッチン | ユニットバス | 住宅設備 |
| 太陽光発電 | エネルギー | 大規模改修 |
| 省エネ改修 | メンテナンス | リノベーション |

ヘーベルハウスは、暮らしの変化に合わせてさまざまなリフォームが可能です。ヘーベルハウスを知りつくした旭化成リフォームが、小さな設備のリニューアルから間取りの変更、大規模な改築まで、多彩なリフォームに対応します。

Part 2 旭化成ホームズグループとSDGs

SDGs(Sustainable Development Goals)
 持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。



旭化成ホームズグループは、60年以上の長寿命を誇る「ロングライフ住宅:ヘーベルハウス」を提供し、居住されている方々の長期間にわたる快適で安全な暮らしを支援しています。そしてそれは、SDGs(Sustainable Development Goals)の理念にも通じるものです。旭化成ホームズグループはこれからも、多くの取り組みを通して、社会の持続的な発展に貢献していきます。

ヘーベルハウス本体においては、高い断熱性能やエネルギー消費を最適化した設計により、気候変動対策に取り組んでいます。また、建設現場・資材工場における廃棄物削減の取り組み、あさひ・いのちの森をはじめとする生物多様性保全の取り組みによって、地球環境の保護に努めています。

居住されている方々に対しては、定期的な点検を通して快適な暮らしを支えます。また、コミュニティ形成などの付加価値を持たせることによって賃貸住宅の運営の安定化を図ります。これらの活動は、都市での持続的な暮らしづくりに貢献するものです。その他にも、子ども向けの環境啓発活動、大学を通じた若い技術者への支援、すべての社員がいきいきと能力を發揮しながら働くための仕組みづくりなどに取り組んでいます。

高品質な住宅でまちづくりを支えます

▶▶ お客様のために (P36) ▶▶ より良い品質のために (P38)

▶▶ 特集:持続可能な都市をつくる、ロングライフ住宅の技術 (P18)

旭化成ホームズグループは、高品質で長寿命な住宅を提供し、居住されている方々に、生涯にわたり安全・快適な暮らしを実現していただくことで、持続的なまちづくりに貢献します。



生物多様性保全

▶▶ 自然共生社会へ向けて (P32)

旭化成ホームズグループは、生物多様性を保存するとともに、地域の良好な自然環境の維持に取り組めます。



地域とのコミュニケーションを深めます

▶▶ 地域・社会のために (P46)

▶▶ 特集:高付加価値賃貸住宅 (P16)

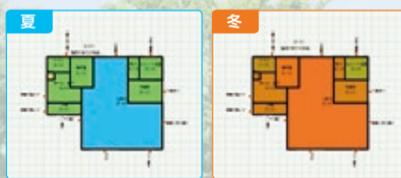
旭化成ホームズグループは、地域の皆様とのつながりを保ち、地域の発展に貢献するとともに、賃貸住宅を通じた新たなコミュニティの形成も支援しています。



気候変動対応

▶▶ 脱炭素社会へ向けて (P26)

旭化成ホームズグループは、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH) の普及拡大をはじめ、さまざまな活動を通して、CO₂排出の削減から脱炭素社会の実現に取り組んでいます。



働く人とともに成長します

▶▶ 社員とともに (P42)

旭化成ホームズグループは、すべての社員が自らの能力を開発・發揮するためのさまざまな制度の整備を進めるとともに、ワークライフバランスの最適化にも取り組んでいます。



廃棄物削減

▶▶ 循環型社会へ向けて (P30)

旭化成ホームズグループは、事業活動に伴って発生する廃棄物の削減とリサイクルを推進しています。また、施工現場では廃棄物削減のための取り組み「AHS-oneプロジェクト」を積極的に継続しています。



Part 3 都市の新たなコミュニティ形成 高付加価値賃貸住宅

人が住まいに求めるものは、ライフスタイルやライフステージによって異なります。価値観が多様化し、さまざまな暮らし方が共存する現代においては、利便性や家賃などの判断基準だけではなく、自分なりのこだわりを満足させることができる住まいを探す人が増えてきています。旭化成ホームズが提供する付加価値型賃貸住宅の「付加価値」とは、入居者のコミュニティ形成のサポートやライフスタイルの提案を通じ、より自分らしく、安心して暮らせる環境を提供すること。人生のステージに応じて、単身女性向け、共働き二世帯向け、子育て支援、ペット対応、シニア向けなど、さまざまなタイプを展開。入居後のフォローやサービスなどソフト面を充実させることで、ハード面だけではない満足度の向上につなげています。

HEBEL MAISON New Safole



女性のためのあんしん共有賃貸

ひとり暮らしの女性が安心して快適な生活を送れるように、「安心の見える化」に取り組んでいる賃貸住宅。プライバシーと防犯性を高めた設計はもとより、駅からの帰り道などを含む立地の選定やルールに則った入居者募集など、女性を守るための配慮を徹底しています。エントランスに設けられた共用スペース「おかえりラウンジ」で一息つけたり、ほかの入居者の雰囲気を感じられるなど、ゆるやかなコミュニティづくりも心がけています。

シニア向け安心賃貸住宅 ヘーベルVillage



シニア向け賃貸

元気なシニアが都市でアクティブに生活するための賃貸住宅。シニアが生活しやすい広い廊下や、エレベーターや共有ホールの設置など、入居者どうしがゆるやかにつながることができる環境を整えています。居室内には段差がなく、トイレや浴室には手すりを完備したバリアフリー設計。月に一度の社会福祉士による訪問や、看護師との電話による24時間健康相談、医療機関との連携など、入居者の不安に応える体制も整えています。

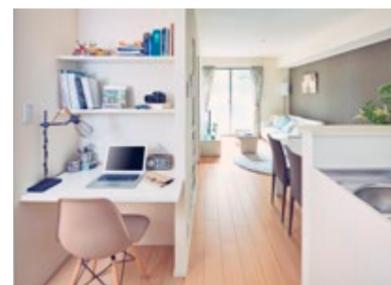
かわらぬにゃん



ペット共生型賃貸

単なる「ペットを飼える」賃貸住宅ではなく、「ペットとともに生きる」ための賃貸住宅。すべての入居者がペットと快適に生活できるように、入居にあたっては一定の審査を行うだけでなく、入居後も獣医やペットトレーナーのサポートを受けられたり、イベントを実施するなど、ペットを通じたゆるやかなコミュニティづくりもサポートしています。

HEBEL MAISON fufu



共働き夫婦向け賃貸

それぞれの時間を尊重しながら、一緒に過ごす時間も大切に。そんな二人の暮らしを実現する賃貸住宅。共働き夫婦のライフスタイルを徹底的に調査・分析し、従来の代表的な1LDK・2LDKと同じ面積にもかかわらず、共働き夫婦が暮らしやすい間取りを実現した、新しいコンセプトの賃貸住宅です。

カ



子育て共感賃貸

「子育ての不安や悩み、楽しさや喜びを共感しあう」ことを目指した賃貸住宅。実際に子育てで経験を持つ女性の皆さんの声を聞きながら開発を進め、コミュニティが自然に育まれ、入居者家族や地域が助け合って子育てができるサポート体制を整えました。「いままでにないくらい毎日が楽しい」と、子育て家族からご好評をいただいています。

高耐久住宅のヘーベルハウスは、戸建も賃貸も同品質で、人生百年時代の人々の暮らしを守ります。ヘーベルメゾンに暮らしていた方々が、ヘーベルハウスを建て、ヘーベルハウスに長く住んできたシニアがヘーベルVillageに移り住む、そんなシーンもめずらしくなくなりました。

長くなった人生を支える住宅は、それをつくり運営する会社もまた、確実に継続していくことが大切だと考えます。賃貸住宅オーナーの長期計画をサポートする30年一括借り上げシステムも、旭化成ホームズが大手ハウスメーカーの中で最初期に始めたシステム。それは、30年後も事業が継続している自信の表れのみならず、ライフステージ全体をサポートして、都市での快適な暮らしを実現する、私たちの決意表明でもあるのです。

Part 4 持続可能な都市をつくる、ロングライフ住宅の技術

ヘーベルハウスおよびヘーベルメゾンの防水は、初期保証期間が30年。これだけ長い期間を保証できる理由は、旭化成ホームズが独自に開発した屋上防水と外壁防水、そして高い施工技術にあります。一般的な防水に比べて2倍以上の強度を持つ「賢者の防水」は、建物の改修回数の削減にも直結。強固な防水シートを採用することで、メンテナンス時に発生する廃材の量を削減して、工期の短縮にも貢献しています。旭化成リモデリングは、この高度な防水技術を、ヘーベルハウス以外の既存の住宅の補修にも展開し、住宅資産の価値の保全に貢献しています。

賢者の防水

建物全体の劣化を早めてしまう雨水の浸入。質の高い屋上防水は、建物の資産価値を保全するうえでも非常に大切な技術です。

旭化成オリジナル防水シートは、高分子系防水シートの内部にポリエステルネットを埋め込んで、安定性・引き裂き抵抗性・高耐久性を向上。雨水を完全にシャットアウトするのはもちろん、地震や火災などあらゆる環境下で性能を発揮する30年耐久を実現しています。万一雨漏りが発生した際にも問題発生箇所の特定が容易で、完全に修復できることから、屋上プールをはじめとした確実な防水性が求められる場所にも採用されるなど、活躍の幅も大きく広がっています。



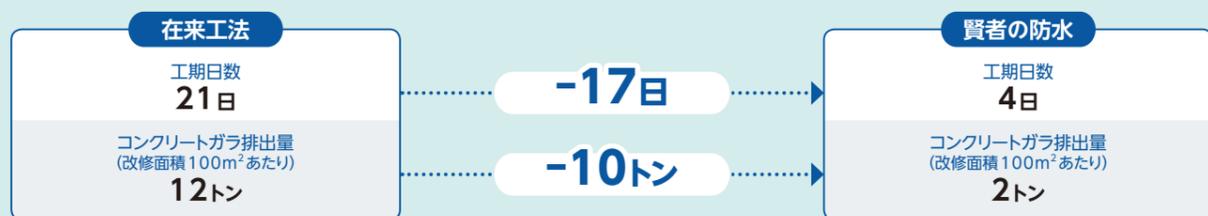
防水加工のプロフェッショナルが施工

施工においても、防水シートをつなぎ目部分を溶着することで接着剤の劣化による影響を排除するなど、知識と経験に基づく熟練した数々の技術で、30年耐久をより確実なものにしています。



30年保証を支える屋上防水

◆ 通常の防水工法と賢者の防水の比較



外壁塗装

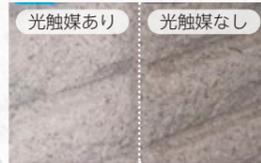
紫外線に強い旭化成オリジナル外壁塗装材

耐久性の高いコンクリート系外壁材であっても、長期間紫外線にさらされると塗装面の劣化やひび割れが起こり、雨漏りを引き起こす可能性があります。

旭化成オリジナル外壁塗装材は、塗料の中に紫外線吸収剤と光安定剤を添加することで紫外線による劣化を防ぎ、外壁からの雨水の侵入を防止します。塗装色もシンプルな単色系だけでなく、石や土など自然界の素材をモチーフにした質感のあるものを展開し、豊富なカラーバリエーションでお客様のニーズにお応えしています。

また、外壁に付着した汚れを光触媒と雨の力で自動洗浄する外壁コーティング「デュラ光」を外壁防水と合わせて施工することで、外壁塗装材を傷めることなく、外観の美しさを長期間維持することができます。

◆ 光触媒と雨の力で自動洗浄「デュラ光」



ヘーベルハウスで培ったこれらの技術をヘーベルハウス以外にも展開することで、多くの建物の高耐久化に貢献し、ひいては都市全体の高耐久化に貢献。建物のオーナーへは、予期せぬメンテナンスコストが発生しないという安心感を提供します。これからも、お客様の資産価値の維持と向上のお手伝いができるフィールドへ、事業の幅を広げていきます。

防災、環境配慮、そして持続的成長

ヘーベルガーデン新富士 あしたの杜

ヘーベルガーデン新富士あしたの杜は、旭化成社宅跡地を再開発した99区画の分譲地で、富士市と「地方創生に関する包括協定」を結び、地域活力を生み出す若い世代の移住・定住を促す魅力的なまちづくりを目指したものです。旭化成ホームズの技術力・ソフト提案力を十分に活かし、高い地域防災力を持った、環境に配慮したまちなみと住まいを実現していきます。

耐震耐火性能に優れたヘーベルハウスがまち全体に建ち並び、集会所と公園には太陽光パネルと蓄電池、備蓄倉庫、防災トイレといった災害発生後の暮らしを支える設備を備えています。緊急時には旭化成富士支社の地下水を地域の皆様に提供することができます。

また、あしたの杜限定でZEH基準を上回る超高断熱性能によりエネルギー消費を抑えて環境に貢献する仕様を設定しています。まち全体の環境計画には住宅総合技術研究所で取得した気象データを活用し、植栽計画には「あさひ・いのちの森」の経験から学んだことを活かして、周囲の緑との間を鳥や虫たちが行き来するエコロジカル・ネットワークが形成されて豊かな住環境が育まれるよう工夫しています。私たちは、これからも住まい価値が持続的に維持成長できるまちづくりを目指します。



旭化成ホームズグループの CSR活動の展開

旭化成ホームズグループはさまざまなステークホルダーと関わっており、その声を聴きながら社会課題を解決し、新たな価値をもたらす商品やサービスを提供しています。また、事業活動を推進するにあたって基盤となる企業としての責任を全うし信頼される企業であるために、法令遵守や環境保全などの取り組みにも注力しています。そういった新たな価値の提供と企業として信頼される基盤づくりを行うための活動全体をCSR活動と考えています。CSR活動を推進するにあたって、当社はCSR方針とガバナンス体制のもと積極的にCSR活動に取り組み、“人々に必要とされ、感謝され、愛され続ける企業”を目指しています。

事業活動を通じてのCSR(積極的CSR)



コンプライアンス・RC

当社のCSR活動の多くのテーマを管理しているのがコンプライアンス・RCの仕組みです。レスポンシブル・ケア(RC)活動とは、主に化学物質を扱う企業がその開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るまで「環境・安全・健康」を確保し、成果を公表することによって社会とのコミュニケーションを図る活動です。ケミカル事業を行う旭化成グループでは、グループの全事業領域においてRC活動を実施しています。旭化成ホームズグループでは、協力業者様も含めてRC活動を行っています。コンプライアンスの推進とRC活動をコンプライアンス・RC推進部により管理しています。

コンプライアンス

旭化成グループは、旭化成株式会社の社長を委員長とする「リスク・コンプライアンス委員会」を設置し、グループのリスク管理とコンプライアンスに関する方針の策定や関連事項の審議を行い、グループ全体のコンプライアンスの推進に努めています。

私たち旭化成グループは、“CS for Tomorrow2018”の中で3つのC(Compliance, Communication, Challenge)を掲げ、そのなかでもコンプライアンス(Compliance)の徹底においては、「現場」に赴き、自らの目で「現物」を確認し、「現実」を知るという「三現主義」を徹底し、社会から常に信頼される企業を目指しています。

“三現主義”の実践



旭化成ホームズグループにおいても、旭化成グループの方針に準じ、旭化成ホームズおよび関連会社におけるコンプライアンスの社内浸透やコンプライアンスリスクの把握と管理、教育等の展開を行っています。

旭化成ホームズのコンプライアンス教育

対象者	研修内容
新入社員	コンプライアンスとは何か？ 具体的な事例をもとに必要なコンプライアンス知識を習得する。
新任課長	コンプライアンスとは何か？ 環境変化認識促進、上司として必要な知識を習得する。
課長以上の職責者	職責者として必要なコンプライアンスに関する知識を習得する。
支店長	関連法規、コンプライアンスのためのマネジメントについて学習する。

旭化成グループ行動規範

2017年4月、あらためて社員のコンプライアンス意識を深めるために「旭化成グループ行動規範」を策定しました。この行動規範は、社員一人ひとりが、コンプライアンスを重視し事業を遂行するうえでの行動上の判断基準を具体化したものであり、拠り所と

なるものです。社員が深く理解し、部場に確実に浸透させるため、旭化成ホームズグループのすべての部場で職場単位での読み合わせを実施しました。今後も新入社員等への教育も含め、浸透のための活動を継続して行っています。

旭化成グループ行動規範の概要

1. “いのち”と“くらし”に貢献するために安全・環境・高品質を確保する
2. 私たちを取り巻く様々な関係者の皆さまとの“誠実”な関係を維持する
3. 経営資源を適正・有効に活用する



コンプライアンス活動の展開

旭化成ホームズのコンプライアンス推進は、総務部、人事部をはじめとする本社スタッフ部門が日々の管理を行っており、その活動の実施状況と法令の遵守状況を、コンプライアンス・RC推進部が監視しています。また、コンプライアンス・RC推進部は、本社スタッフ部門が把握しているそれぞれのコンプライアンスに関するリスクを集約し、旭化成ホームズ全体のリスクとして管理を行っています。

関連会社にはリスク・コンプライアンス責任者・管理者を選任・配置し、リスクおよびコンプライアンスの管理を行っています。

リスクの洗い出し

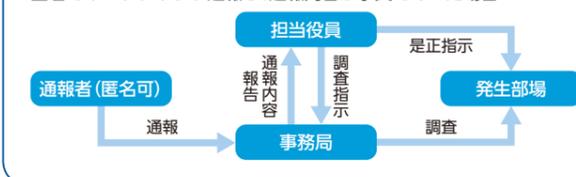
各本社スタッフ部門および関連会社にて洗い出したリスクを定期的に集約し、旭化成ホームズグループとしての重大リスクの見直しを行い、必要な対応を行っています。

内部通報制度

旭化成グループは、コンプライアンス違反に関する情報を速やかに把握し対策を講じることを目的として、2005年から内部通報制度をグループ内共通の制度として運用しています。通報・相談は匿名・実名どちらでも受け付けており、イントラネットもしくは封書(指定する弁護士事務所宛)の方法があります。また、通報者に対して通報を理由とした不利益な取り扱いが行われないための措置を講じています。2015年度からは、お取引先の従業員の方も同様の通報・相談ができるように仕組みを拡大、2017年度には、行動規範策定の案内と併せ再告知を行い、旭化成ホームズグループ全体で2000社弱のお取引先への展開を行いました。

内部通報制度の運用例

匿名でイントラネット通報し、通報内容が事実であった場合



RCの取り組み

RCの取り組みは、テーマごとに全社活動を設定し、各部門において活動を実施しています。活動の設定状況、実施状況は年に2回実施する「RCヒアリング」において確認しています。RCヒアリングは、コンプライアンス・RC推進部が「環境・安全・健康」の活動状況の確認や情報の提供、アドバイスを実施するものです。2017年度は、各営業本部(9本部)、旭化成不動産レジデンス、旭化成リフォーム、旭化成住工を含む関連会社7社の計16カ所でヒアリングを実施しました。この結果は当社の活動成果として承認されるとともに、旭化成株式会社が旭化成ホームズを含む各事業会社や支社に対して行っている「RC監査」や「RC委員会」「RC推進会議」により、旭化成グループ全体で確認・評価されます。



RC大会の様子

目標管理

CSR活動のうち、環境について目標管理を実施しています。「脱炭素社会に向けて」「循環型社会に向けて」「自然共生社会に向けて」の3つをテーマとして関連部門やグループ関連会社が目標を設定しています。目標設定および活動、評価等を事務局である環境・渉外技術部がサポートし、毎年4月に各部門が設定する環境目標の達成状況は全社の「経営会議」「環境委員会」「実務者会議」および環境・渉外技術部が実施する「環境業務確認会」により確認されます。

環境目標と実績

環境方針を具現化する目標を設定し、その実績を評価しています。



テーマ	中期目標 (～2020年度)	2017年度 目標	
1 脱炭素社会に向けて	1-1. 環境配慮住宅によるCO ₂ 削減貢献と事業活動CO ₂ 削減	[LCA・CO ₂ 削減貢献度]* (2020年度:[14.3] 2030年度:[15.3])	[LCA・CO ₂ 削減貢献度]*:[12.5]
		・高断熱化の推進(2018年度～)(2020年度:CO ₂ 貢献量51万t-CO ₂) ・自然の恵み・高効率設備搭載による環境配慮住宅の普及・拡大(2020年度:CO ₂ 貢献量81万t-CO ₂)	<CO ₂ 削減目標> 自然の恵み設備(太陽光・太陽熱・地中熱等): (戸建)1,163kg-CO ₂ /棟、(マンション)2,643kg-CO ₂ /棟 <CO ₂ 削減目標> 高効率設備(燃料電池・ヒートポンプ等): 388kg-CO ₂ /棟
		事業活動CO ₂ 排出削減(2020年度:CO ₂ 排出量9.3万t-CO ₂)	事業活動(事務・工場・輸送・施工)CO ₂ 排出削減: 原単位1%減
	1-2. アフター分野によるCO ₂ 削減貢献	ロングライフプログラムの自社実施率向上による長寿命化	・定期点検実施率 90% ・計画修繕実施率 80%
	ストックヘーベルハウス拡大	ストックヘーベルハウス仲介:250棟(累計2,480棟)	
	エコリフォームの拡大	エコリフォームの拡大:(太陽光1,800棟)	
2 循環型社会に向けて	2-1. 産業廃棄物の削減	新築現場の産業廃棄物削減(2020年度:1.60t/棟)	新築現場の産業廃棄物削減の継続実施(1.75t/棟)
	2-2. 省資源の推進	工場生産の産業廃棄物削減 [住工]:対2014年度比10%減レベル維持 [建材]:ゼロエミッション継続	工場生産の産業廃棄物削減 [住工]:10%減[売上高比] [建材]:ゼロエミッション継続
3 自然共生社会に向けて	3-1. 生物多様性に配慮した住まいづくりの推進	事業活動における水・紙(オフィスペーパー)使用量の削減 ・水[住工]:原単位6%減(対2014年度) [建材]:法令遵守継続 ・紙(オフィスペーパー)原単位6%減(対2014年度)	・事業活動の水使用削減 [住工]:1%減[売上高比] [建材]:法令遵守継続 ・事業活動の紙(オフィスペーパー)使用削減 原単位1%減
	3-2. 木材グリーン調達 の継続実施	生物多様性に配慮した「都市住宅の庭」の実現	生物多様性保全活動としての「まちもり」計画推進
		合法木材の使用推進継続	合法木材の使用推進継続

* (LCA・CO₂削減貢献度) = (ヘーベルハウスによるCO₂削減効果[環境貢献]) / (事業活動に伴うCO₂排出量[環境負荷]) [P26参照]

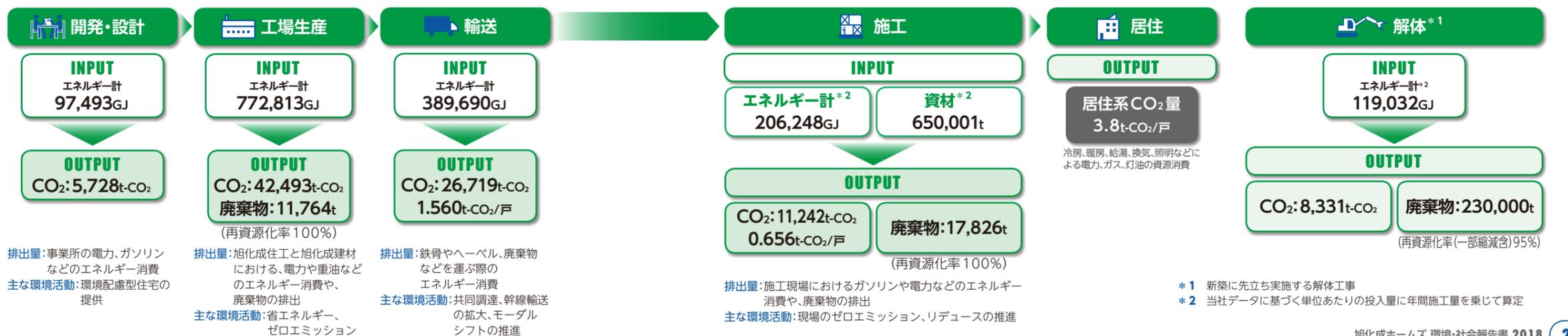
住工:旭化成住工 建材:旭化成建材

当期目標を :達成 :ほぼ達成(80%以上) :達成なかば(60%以上) :未達成

2017年度 実績	評価	掲載頁	2018年度 目標
実績値[12.3]		22	[LCA・CO ₂ 削減貢献度]*:[13.5]
(戸建)1,131kg-CO ₂ /棟、 (マンション)2,635kg-CO ₂ /棟		22,23	(戸建)1,163kg-CO ₂ /棟、 (マンション)2,643kg-CO ₂ /棟
365kg-CO ₂ /棟		22,23	388kg-CO ₂ /棟
原単位1.5%増		24,25	事業活動(事務・工場・輸送・施工)CO ₂ 排出削減: 原単位1%減
・定期点検実施率 85.4% ・計画修繕実施率 屋上防水工事 80% 外壁塗装工事 73%		23	・定期点検実施率 90% ・計画修繕実施率 80%
実績207棟/年(累計2,437棟)		24	250棟
太陽光1,102棟		24	太陽光1,800棟
平均1.80t/棟		26,27	新築現場の産業廃棄物削減の継続実施(1.75t/棟)
[住工]:4.2%増 [建材]:達成	 	26	工場生産の産業廃棄物削減 [住工]:10%減[売上高比] [建材]:ゼロエミッション継続
・水 [住工]:7.9%減 [建材]:達成 ・紙 原単位1.1%減	 	-	・事業活動の水使用削減 [住工]:1%減[売上高比]、 [建材]:法令遵守継続 ・事業活動の紙(オフィスペーパー) 使用削減:原単位1%減
「まちもり」ポット(緑化パッケージ)を実物件に普及中		14,15	生物多様性保全活動としての「まちもり」計画推進
実施		29	合法木材の使用推進継続

旭化成ホームズグループと環境とのかわり

INPUT:投入資源量 **OUTPUT:**排出量
●対象範囲:
「工場生産」は旭化成住工、旭化成建材の2社(2015年度より建材岩国工場のデータを追加)その他は旭化成ホームズ
●事務所系廃棄物は含まれていません。
●プレハブ建築協会エコアクション21調査のCO₂排出係数を使用
●2017年度施工:17,130戸



*1 新築に先立ち実施する解体工事
*2 当社データに基づく単位あたりの投入量に年間施工量を乗じて算定

脱炭素社会へ向けて

旭化成ホームズグループは、ヘーベルハウスによる自然の恵みを利用した設備の導入や自然を享受する住まい方提案、事業活動に伴うCO₂の削減を通して、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。

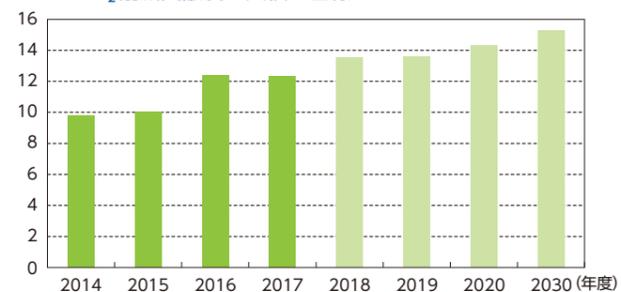
LCA*1・CO₂削減貢献度の拡大

「LCA・CO₂削減貢献度」とは、事業活動に伴う年間CO₂排出量を分母とし、断熱性能や太陽光発電システムなどの環境配慮製品による年間CO₂削減効果を分子として算出される指標で、その数値が高いほど貢献度が高いと見なされます。事業活動による環境負荷が小さくなり、製品提供による環境貢献が大きくなるほどこの指標は高くなります。

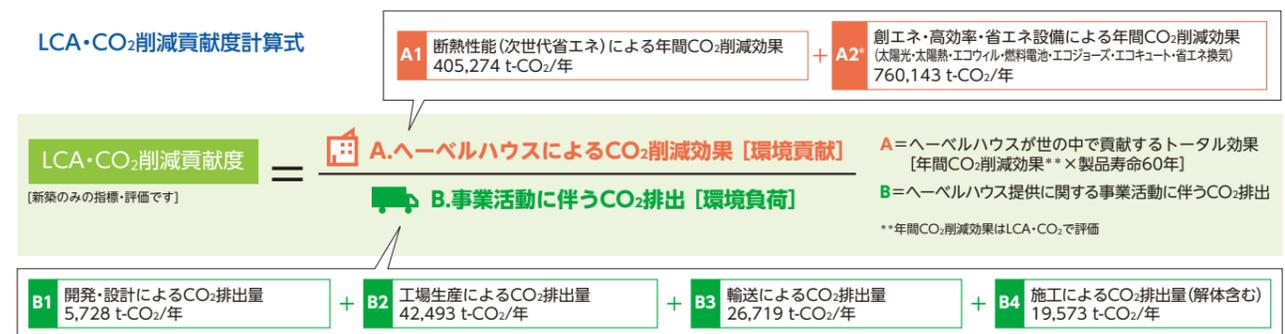
2017年度の貢献度は、目標値12.5にわずかに届かず、12.3となりました(昨年度実績:12.4)。ZEH普及率が25%と伸びた一方、改正FIT法の影響等による太陽光発電の伸び悩みや、物件大

型化による解体系産廃増が影響を与えました。今後も製品提供によるCO₂削減を継続するとともに、事業活動によるCO₂排出削減に努めていきます。

LCA・CO₂削減貢献度の実績と目標



LCA・CO₂削減貢献度 2017年度目標:12.5→実績:12.3



2017年度の実績数値 2017年度の実績12.3とは事業活動でのCO₂排出量を1とした場合、ヘーベルハウスによる2017年度のCO₂削減量が12.3になるといことです。

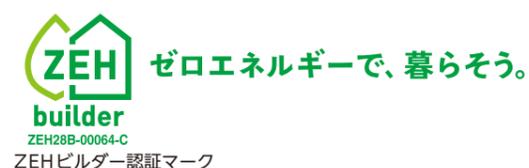
A2 = 760,143 t-CO₂/年 (内訳) ●太陽光発電システム 574,118 t-CO₂/年 ●燃料電池 59,144 t-CO₂/年 ●省エネ型常時換気システム 51,555 t-CO₂/年
●太陽熱温水器 34 t-CO₂/年 ●エコジョーズ 30,303 t-CO₂/年
●エコウィル 979 t-CO₂/年 ●エコキュート 44,009 t-CO₂/年

*CO₂算定の際の電力排出係数は、太陽光では0.305kg-CO₂/kWhを使用、その他はメーカーへのヒアリングに基づくものです。

住宅の消費エネルギーゼロを目指して ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)

家庭のエネルギー消費量を減らし、温暖化対策へ貢献するために、ハウスメーカーでは省エネ型住宅の開発が盛んに行われています。また、政府主導の下に新築住宅のエネルギー収支を0にする“住宅のゼロ・エネルギー化(ZEH化)”も進められており、2020年度までの目標が掲げられています。政府はZEHの基準を満たした住宅を建築する際に補助を行うという支援を実施しており、2017年度において、7,600件を超える採択がありまし

た。当社においても2020年度70%を目指し、該当製品の開発やお客様への普及活動を行っています。2017年度からは、2020年度までに自社が受注する新築物件のうち50%をZEHにするという目標を掲げたビルダーを登録する「ZEHビルダー登録制度」もスタートし、現在6,200件を越えるハウスメーカー・工務店が登録されています。



*1 LCA: ライフサイクルアセスメント。製品の設計・製造から廃棄に至る全段階の環境負荷を科学的・定量的に評価する手法。

当社においては、2016年度実績が当初目標を上回ったため、2017年度目標値を15%⇒18%へ上方修正していましたが、結果としてその目標値を大きく上回る25%を達成しました。これは2017年度に2階建ての建物を標準的にZEH基準の断熱性能をクリアする住宅とし、販売したことなどが主な要因です。

ヘーベルハウスのZEH普及の目標と実績

年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	10%	18%	40%	60%	70%
実績	11%	25%	—	—	—

より高い断熱性能と、さらなる住みやすさを目指して

ZEH普及率40%に向けての施策

ZEHは住宅内のエネルギー効率を最大化させるために断熱性能を強化した住宅です。一方で当社のヘーベルハウスは高耐久の住宅であり、その強靱な鉄骨の躯体と苛酷な環境に耐えるヘーベル(壁材)をはじめ、さまざまな特徴があります。当社のZEHは、ヘーベルと高性能断熱を一体化させ独自に開発した二重構造(ダブルシェルター構法)の耐久型断熱を採用し、高耐久でありなおかつ、温暖化対策へ貢献します。また、すべてのモデルにこれらを採用することによって、さらなる普及を目指しています。

2018年度は、弱点であった開口部(窓)の断熱性能を向上させることによって、3階建て以上の建物についても標準的にZEHの基準を達成する住宅を販売します。

冬季に住宅から逃げる熱量の40%程度は窓からです。窓の断熱性能が向上することによって、不快なコールドドラフト*2や水周り空間におけるヒートショックを低減し、さらに健康で快適な空間の提供を実現しています。

ARIOS(アリオス)活用により ZEHをさらに住みやすく

ARIOSは建築前に住まいの日照・通風・夏の暑さ・採光などをシミュレーションすることができるツールです。設計段階において、自然と調和した室内環境の提案を行うために活用されてきました。お客様が選んだ旭化成ホームズからの「良かったアドバイス」において、半数以上が室内環境に関する提案となっており、お客様が室内の住環境を重要視していることがわかります。2018年度はZEHの効果を見える化するため、高断熱・高气密住宅に見合った住環境や設備の提案ができるよう新機能を追加しました。それにより夏の暑さ・冬の寒さを確認できるようになりました。

*2 主に冬季、暖かい室内の空気が冷たい窓に触れて冷やされ、床面に下降する現象。

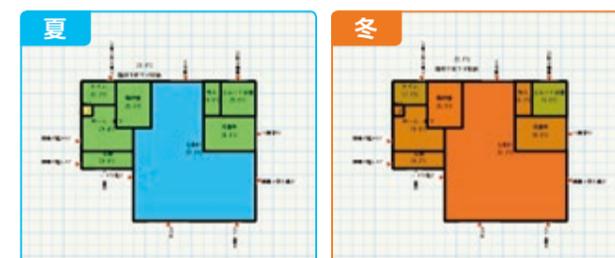
- ① ZEHに対応した暖冷房(エアコン)の選定(図1)
- ② その証拠提示として家族の暮らしに合わせたエアコン稼働のスケジュールによる室温表示(図2)

図1:空調エネルギーコスト

空調室		冷暖房負荷	(従来)
LDK	定格	4.0kW	5.6kW×2
	設備費	131,100円	382,400円
	消費電力	461kWh/年	452kWh/年
	電気代	11,064円/年	10,824円/年
洋室15	定格	2.2kW	2.2kW
	設備費	77,700円	77,700円
	消費電力	63kWh/年	63kWh/年
	電気代	1,512円/年	1,512円/年

夏期には、高断熱なZEHでは室温の上昇を抑えるために日射対策が必要となります。ARIOSは、窓から入る日射量をシミュレーションに反映させ室温を画面に表示させるだけでなく、室温を快適に保つために必要なエアコンを選定するための情報も提供します。この機能により、必要十分な消費電力のエアコンを選定することができ、住みやすさを実現しながら省エネルギーにも貢献することができます。

図2:各階 部屋温度表示



ARIOSは邸別のシミュレーションが可能で、建物だけではなく周辺環境や地域別の気象条件を含めた結果が見えるようになっており、他社にはない当社独自のシステムです。設計したプランを邸別に計算し、快適な住環境に改善することができます。このように建てる前に暑さ・寒さを見る化し、住環境を考慮した住宅の設計を行っています。

ロングライフプログラムに基づく 維持管理状況

政府は2016年3月に公表した「住生活基本計画」の施策のひとつとして既存住宅が資産となる「新しい住宅循環システム」の構築を提唱しています。優良な住宅を維持し、長く資産として残すことが国の利益につながるという考え方で、これは同時に無駄な廃棄の削減にもつながります。

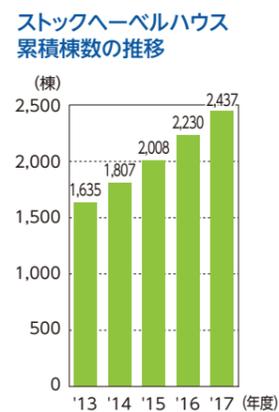
当社は従前よりヘーベルハウスの基本性能を60年先まで維持する独自のメンテナンス・点検システム「ロングライフプログラム」を

構築しており、政府の取り組み施策をすでに実現しています。また、さらなるロングライフプログラムの自社実施率向上を目指し、2020年度までの中期目標を策定しています。建物の資産価値維持向上のためには、定期点検の確実な実施が不可欠となります。この定期点検実施率を向上させるために、適切な時期にお客様へ点検時期のご案内を行い、その後も細やかなフォローを行ってまいります。2017年度の定期点検実施率は85.4%でした。2018年度は定期点検実施率90%、計画修繕実施率80%の高い目標を設定し、活動を進めていきます。

また、構造躯体だけでなく防水についても30年保証が実現し、ロングライフのサポートがさらに充実しました。

ストックヘーベルハウスの拡大状況

旭化成不動産レジデンスでは、1998年度からヘーベルハウスの既存住宅を対象とする中古住宅仲介事業「ストックヘーベルハウス」を展開しています。長期（現在は最長50年）にわたって建物を評価する独自の査定方法を開発し、特許を取得しています。2017年度までに累計で2,437棟のヘーベルハウスをセカンドオーナーに引き継ぎできました。



ヘーベルハウスの中古住宅市場における流通量が増え、優良なストック住宅市場が拡大することにより、既存住宅の長寿化につながります。またスクラップ&ビルドを控え、環境負荷の低減にもつながると考えています。

安心R住宅制度

2018年4月、優良な既存戸建の流通の促進を目指して国が進めてきた「安心R住宅制度」が本格的にスタートしました。既存住宅の「汚れ」「構造が不安」「メンテナンスの情報や資産価値が不明確」等といった不透明なイメージを払拭し、お客様が安心して既存住宅を購入できることを目指しています。

安心R住宅の基準は次のようになっています

- ① 新耐震基準に適合
- ② インспекションの結果、既存住宅売買の瑕疵保険の検査基準に適合
- ③ リフォーム等の情報提供

安心R住宅には、国が定めたロゴマークが付与され、お客様の住宅購入のひとつの目安となります。

また、大手ハウスメーカーで構成される「優良ストック住宅推進協議会（スムストック）」は安心R住宅の第一号登録事業団体として登録されました。

当協議会に加盟する当社も、「ストックヘーベルハウス」の流通促進の仕掛けのひとつとしてこの制度を活用しながら、優良なストック住宅の適正な市場形成に取り組んでいきます。

旭化成リフォームの「エコリフォーム」

昨今、既存住宅の環境負荷を低減させる「エコリフォーム」に注目が集まっています。旭化成リフォームでは、再生エネルギー関連商品など設備の提案、高断熱改装など住宅性能そのものの改善の提案をしています。2017年度は再生エネルギー関連として太陽光発電システム1,175棟、蓄電池80棟、エネファーム300棟が採用されました。また、長寿命の建物の性能をリフォーム工事で改善し建て替えのサイクルを長期化することにも貢献しています。内装を一新し、断熱材も更新する大型改装「リメイク」は170棟の実績がありました。今後も、さらに断熱性能を向上させ環境にやさしい高断熱住宅の実現を目指していきます。



鉄骨とヘーベル板だけの状態にしてからのリフォーム

現場の工期短縮によるCO₂排出低減

施工現場ではCO₂削減の取り組みとして工期短縮活動を実施しています。2017年度は工期の見直しを図りました。これまで営業本部ごとにはばらつきがあった契約工期を見直し、全国統一基準を制定しました。この取り組みにより今まで以上に、施工部門では工期短縮に対する意識を高く持ち、活動に取り組むことができるようになりました。

また、施工力の無駄が無いように職方の空きや不足の情報交換を工事店単位から拡大し、工事課や営業本部単位で行うことに取り組まれました。

さらに、大工によるキッチン取り付けなど複数の作業ができる人（多能工）を育てることにより、作業のできる工程を広げ施工力を有効に使用できるように取り組んできました。

その他、工具の作業効率化にも取り組んでいます。充電式丸のこを利用することによりコードを気にしない作業ができるようになり効率化が図れました。

また、Bluetoothで電源の入る集塵機により電源のON-OFF操作が不要となり無駄な時間を短縮することができました。このように効率化が図れる工具を職方に使用してもらい工期短縮を図っています。

これらの活動により、軽量鉄骨造の戸建工期は前年度比2日の短縮、重量鉄骨造の戸建工期は前年度比3日の短縮を達成することができました。

18年度はこの活動を推進し現場の工数・工期を削減することでガソリンや電力などのエネルギー消費量や廃棄物の排出量の削減を図っていきます。

また、現場への移動の車は軽自動車やハイブリッドカーを積極的に導入しています。現在施工部門で契約しているリースカー630台のうち、547台が軽自動車、9台がハイブリッドカーとなりました。今後も採用に積極的に取り組んでいきます。

工場におけるCO₂低減活動

旭化成住工滋賀工場（省エネ法の第一種エネルギー管理指定工場）は、継続してエネルギー原単位（売上高比）1%以上削減の省エネに取り組んでいます。

2017年度のエネルギー原単位は、電力のピークカットを目的に2016年3月に設置し、4月より稼働したガスコージェネレーションシステム（都市ガスによる発電システム）の発電量増加（1,089MWh→1,113MWh）により、前年度比で3.3%の削減となりました。

また、CO₂排出量原単位（売上高比）も、前年度比で2.6%削減しました。

滋賀工場および厚木製造部に設置している太陽光発電パネルは、昨年度の1年間で約930MWhの売電を行いました。引き続き太陽光発電など再生可能エネルギーのさらなる活用を検討中です。



ガスコージェネレーションシステム K棟太陽光発電パネル

各製造ラインでは、計画的にエア配管の漏れ確認と修理を実施し、エアコンプレッサの負荷低減による電力使用量の削減を継続しています。

旭化成建材の各工場においては、オートクレーブ蒸気の回収使用やボイラーや電動機・照明器等を高効率化機種に更新することで継続的に省エネルギーへの取り組みを行っています。

旭化成ホームズ向け出荷量は対前年度比1.1%減でした。一方工

ネルギー原単位は対前年度0.5%減、CO₂排出量は対前年度2.4%減となりました。

輸送活動における取り組み

物流を効率化することが、コスト削減とともにCO₂削減にもつながる重要なミッションと考え活動しています。2017年度は、具体的な取り組みとして、以下を行いました。

- 物流センターを従来の6カ所から7カ所に増強し、拠点から現場までの配送距離を短くし、少ない車輛台数で効率良く配送できる仕組みに変更（特にエリアが集中している都市部）
- 在庫部材のうち、使用頻度が高く、高張る部材（4部材）に関して、各拠点に分散して在庫することで幹線便の効率化およびコスト削減に貢献
- 現場からの持ち戻りを削減するため、データの見える化（開示）および配送時間の指定による荷受け人の調整
- ハイブリッド車等の環境対応車の導入促進、大型車の積載率向上のための荷姿改善や部材の合積みの推進、トレーラー活用による車輛効率化、高速道路利用によるドライバー拘束時間の短縮
- パレット利用による積込み時間の短縮、簡易梱包（梱包材削減）による産廃削減

これらの活動により物流CO₂排出量は、棟数原単位で前年より若干の低減でした。（年度途中での変更のため）

施工現場との取り組みとしては、新築現場で使用する約10万点の部材を工程に合わせて適時に適材を配送することによって、施工効率や品質向上に貢献しています。

また、物流の効率化と併せて安全・品質向上や改善活動にも力を入れています。毎月拠点ごとに当社と物流会社による会議を開催し、管理を徹底しています。さらに年2回、全国の物流拠点の責任者を集め安全会議を開催しています。その場では各拠点での効果が高かった取り組みを発表してもらい共有化を図り、また一定期間無災害だった拠点を表彰する等、啓発活動も取り入れています。

ドライバー不足・車輛不足に備え、まずは現状の勢力を維持すること、そのために何をしたらいいかを常に考えながら取り組んでいます。今後は、さらに少ない車輛台数で効率良く配送できる仕組み作りに取り組んでいきます。



安全会議の様子

循環型社会へ向けて

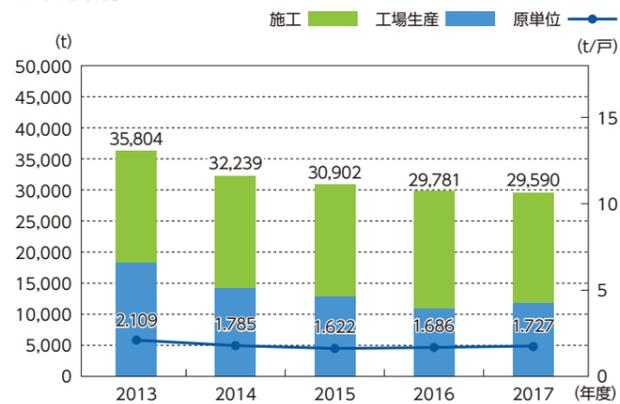


旭化成ホームズグループは、事業活動に伴って発生する廃棄物の削減とリサイクルを積極的に推進しています。また、施工現場では廃棄物削減のための独自の取り組み「AHS-one(アースワン)*1プロジェクト」を積極的に継続し、循環型社会に向けた活動を展開しています。

事業活動における産業廃棄物削減の取り組み

産業廃棄物削減については、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の観点から総合的に取り組んでいますが、最も環境負荷低減に寄与できるのは、リデュース(発生抑制)と考えています。2017年度の工場および新築施工での発生量は、総量で0.6%減でしたが、原単位では2.4%増となりました。これは、工場における数年に1回の排水槽清掃による汚泥発生や、海外子会社からの輸入量増によるパレット等の廃棄量増、販売戸数減分までを削減しきれなかったことなどが要因として挙げられます。さらなる削減に向けて、部材のプレカットや梱包材削減の継続に加え、昨年より新たに工場での塗料溶剤リサイクル(蒸留再生利用)や施工現場の止枠リユース(再使用)など、新たな取り組みも始めました。全社の合言葉は、引き続き「ムダなものを入れない!」そして排出時には「やむを得ず出たものをリユース・リサイクル」という意識を常に持ち続けることです。廃棄物のスリム化にこれからも積極的に取り組んでいきます。

産業廃棄物グラフ



工場における資源循環の取り組み

旭化成住工では、2003年度に最終埋立て処分量を0にするゼロエミッションを達成し、これまで継続しています。そのために、生産計画と調達計画を厳密に連動させ、原料・資材(鋼材・梱包材)の工場受け入れのムダを減らす活動(リデュース)に加え、発生した排水汚泥、鉄、プラスチックくず等の廃棄物の再使用、再生利用

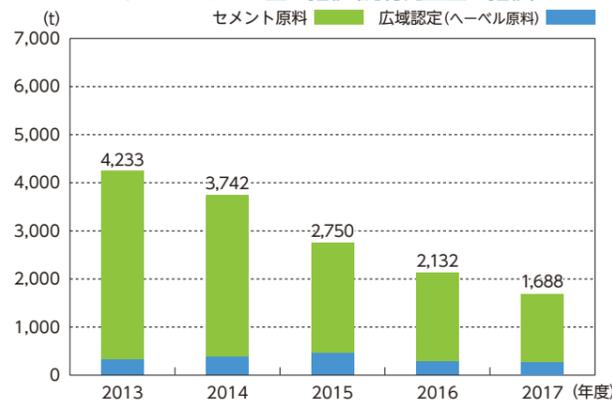
(リユース・リサイクル)を徹底しています。2017年度は、ED2・3化成タンク清掃汚泥の排水処理化などを実施しました。また、2018年3月には、滋賀工場の排水処理場の凝集汚泥返送システム改造を実施し、2018年度に産業廃棄物として排出する排水処理汚泥の重量を約60%削減する計画です。



排水処理場 凝集汚泥返送ポンプ

旭化成建材では最終埋立処分量を0にするゼロエミッションを2006年度に達成し、現在まで継続しています。工場内で発生した廃棄物は工場内でのリサイクルおよび外部再資源化・サーマルリサイクル等を行い、最終処分となる廃棄物はありません。また、2017年度も環境事故・トラブル発生および近隣からのクレームなどは発生しませんでした。ヘーベルパネル廃材の広域リサイクルシステムは順調に運用を続けており、現場から回収されたヘーベルパネル廃材をセメント材料としてリサイクルしています。

ヘーベルパネルリサイクル量の推移(廃材発生量の推移)



施工現場における産業廃棄物削減に向けた取り組み

AHS-one(アースワン)活動

施工部門では廃棄物削減の活動を「AHS-one活動」と名付け、3Rの観点から活動を実施しています。当社の廃棄物の管理は、施工現場から排出された廃棄物を自社の資源循環センターに搬入、分別し、一部は固形燃料化し、それ以外もすべてリサイクルする仕組みになっています。そのため、廃棄物削減の活動として、施工現場においては、資材の「適正搬入」および「現場での端材等の再利用」に力を入れており、資源循環センターでは現場から排出された廃棄物のリサイクルに重点を置いた「徹底分別」を行っています。これらの活動を目標化し、昨年からはAHS-one(1邸で発生する廃棄物量を1tに削減する活動)と名付けて全社を挙げて取り組んでいます。

2017年は「モデル現場活動」に取り組みました。これは、営業本部の代表的な工事課で品目ごとに削減見込みのある活動を特定し、その効果を検証するというものです。その結果、特に効果の高かった活動は「石膏ボードのプレカット」です。サッシ周りや建具周りなど大きさの決まっている石膏ボードをあらかじめ工場で使用寸法にカットを済ませ、現場搬入を行うことによって200kg/邸の削減効果が得られました。



ボードプレカット

また、木くずの廃材削減活動として玄関土間やアパート内部の立上り増打の止枠を従来のベニヤから鋼製やスタイロフォームへ切り替える活動に取り組みました。これにより6kg/棟の削減効果が得られました。

その他にAHS-oneの活動で重要なのは、職方一人ひとりの廃棄物削減意識の向上です。旭化成や工事店の現場担当者は職方に対しAHS-oneをさまざまな場で繰り返し説明し、理解してもらうことで職方が材料の無駄が



鋼製玄関土間枠



スタイロ枠

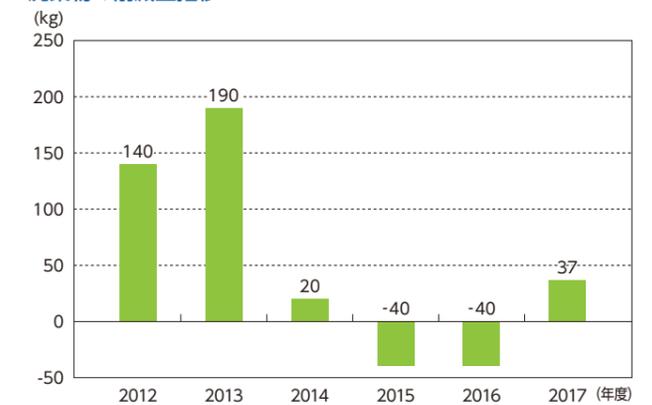
出ないように工夫して使用してもらえるようになってきました。この活動により職方の意識に変化が生まれ、職方から廃材削減の提案が出され活動が活性化してきました。

一方で、モデル現場の活動はまだ全国の一部の活動となるため、全国としては平成28年下期1,826kgから平成29年下期1,811kgと15kgの削減でした。今期はこれらの現場での活動に加え、現場で発生している余剰材をリデュースする活動に取り組み廃材量の削減を図っていきます。



職方へのAHS-oneの説明

廃棄物の削減量推移



水資源削減の取り組み

2016年から、現場の泥などを敷地外に出さない「凜とした現場」の取り組みを実施しています。その中の取組みとして、道路との境界にマットを敷き、現場の泥を敷地外に出さない取り組みを実施しています。この活動により雨天でも敷地外へ土砂が流出することもなくなり、道路清掃に使用していた水を大幅に削減することができました。



道路との境界に敷いたマット

*1 AHS-one: A(旭化成) H(海技) S(サクゲン) 1(トン)の略

自然共生社会へ向けて

旭化成ホームズグループは、自然との共生を目指した環境を大切にす社会の実現に向けた取り組みを進めています。また、社会の皆様とともに、事業を通じて未来世代へ貢献する活動を展開しています。

あさひ・いのちの森

「あさひ・いのちの森」は旭化成富士支社、住宅総合研究所が位置する田子の浦の自然や里山を再生し、地域の生き物たちとその生態系の保全を目指すエコトープです。1haの面積に、尾根から谷、流れ、池と複雑な地形をつくり、池沼植生・水田・湿地から神社に見られる照葉樹の自然林を再生しました。2007年、社員・地域有志の方々2,000人が参加した植樹祭から、昨年10周年を迎えました。樹高1mにも満たない苗木は10mを超える大木に育ち、さまざまな生き物を育む「いのちの森」に成長しました。2017年度は「10周年記念誌」発行、「SEGESそだてる緑部門 Stage2」認定、森のさらなる活用を推進する「あさひ・いのちの森」育むプロジェクト発足など、自然共生社会に向けた活動を活発に行うことができました。プロジェクト活動のひとつとして、地域のお子さんを招いて行った自然観察会も好評を頂いています（P46参照）。流れから田んぼにかけては、旭化成社員OBによるホタルの育成が続けられています。今年も取引先様や地域の方たちと一緒に自然に触れ合う「ホタル祭り」を開催することができました。



SEGESロゴマーク 10周年記念誌



あさひ・いのちの森

“多様な自然の創生とその共有による地域への貢献”をテーマと

する「あさひ・いのちの森」は、その実現のために①地域環境の保全・発展 ②人間と自然の接点を考慮した自然環境の整備 ③地域性の忠実な反映、という3つのコンセプトを設定しています。43カ所の事前周辺植生調査に2年間を費やし、その後の継続的なモニタリング調査結果に基づき適切な管理を行ってきました。「計画的な森づくりを記録し続けている」という学術的な側面を持つようになりつつあります。IGES国際生態学センター主催のフォーラムでも「あさひ・いのちの森」について発表の機会をいただき、多くの方から関心が寄せられました。



IGES国際生態学センター主催のフォーラムでの発表

森から東5kmに位置する湿原である、浮き島ヶ原の水路整備に際して移設した土から、希少種のおニナルコスゲやナヨナヨスレナグサの生育・群生が見られるようになりました。

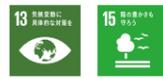


おニナルコスゲ



ナヨナヨスレナグサ

森は大きく成長し、それに合わせて600種を超える昆虫類をはじめ、両生類やそれを捕食する爬虫類・鳥類などが調査によって確認されています。これらの生物が運んでくる種によってさらに多様な植生が育まれています。



「あさひ・いのちの森」の昆虫 森の道

「森は完成に100年を要する」と言われます。「あさひ・いのちの森」はまだ10年ですが、多くの方のご協力を得ながら魅力的な森に育ちつつあります。私たちは今後も計画的な維持管理に努め、生物の多様性を育み、ここで得られた知見を社会に還元しながら、次世代へしっかりと引継いでいきます。

工場における生物多様性保全の取り組み

旭化成住工・滋賀工場は、かつて水田や雑木林、溜池などの多様な里山環境が連続的に分布する、豊かな水辺の生態系があったと考えられる土地に立地しています。近年、開発などにより減少しているトンボを対象として、生物多様性 湖東地域ネットワークの参加企業とともに、2016年度より調査、保全活動を開始しました。

トンボ調査の実施

2年目となる2017年は、トンボ保全活動の指標となるデータ蓄積を目的に、滋賀工場敷地内および周辺地域の生態系簡易調査およびトンボ調査(3回)を継続実施しました。

その結果、前年度より17種多い、49種(生息可能性79種中。重要種ヨツボシトンボを含む)を確認しました。次年度以降も継続して調査を行います。



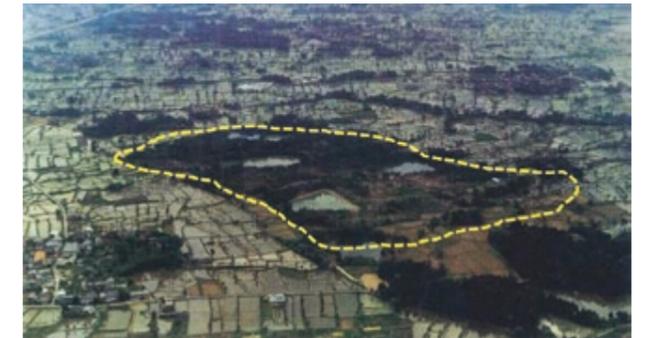
ハグロトンボ



周辺地域のトンボ調査

ビオトープの創出

2017年6月には、地域にくらす生きものの山から平地、平地から山への移動経路(エコロジカルネットワーク)強化を目的として、滋賀工場敷地内にビオトープを創出しました。



昭和45年頃、滋賀工場建設前の湯屋地区(黄色の破線で囲った部分が、現在の滋賀工場の位置。出典:田中与惣一氏編集「ふるさと湯屋」)

現在の工場周辺で、自然豊かな水辺環境は山奥に残されたわずかな場所に限られていることから、かつての環境の一部を復元することによりトンボが飛び交う当時の原風景を再現したいと考えました。計画にあたり周辺地域の生物調査を詳細に実施し、植栽する植物や水深などはこの生物調査の結果を反映して地域の生態系を復元することとしました。

工場建設により埋め立てられた6つの溜池のうち、かつて、勝鳥溜、塚こし溜、げん堂溜と呼ばれた3つの溜池の形状を5分の1スケールで再現し、水深や植栽に変化をつけ、1つを降雨時のみの一時的水域にするなど多様な水辺環境を復元しました。

土は、希少種のヨツボシトンボが数多く生息する近隣湿地のものを使用しました。

また、植栽した植物、ハンノキ、アゼスゲ、ヨシ、チガヤ、ミクリなどはすべて近隣湿地や溜池から移植し、池の形、土、植物などをすべてを地域産にこだわりました。

こうして完成したビオトープは、社員公募により「湯屋」地区と「ヘーベルハウス」の名前の一部をいただいて「湯屋のヘーベルビオトープ」と名付けました。

草刈りなどには生物モニタリング調査を反映し、トンボの繁殖期には水辺の植物を残すなど順応的に管理しています。



勝鳥溜



塚こし溜



げん堂溜



完成した「湯屋のヘーベルビオトープ」

2018年5月、湯屋のヘーベルビオトープに今年初めてのヨツボシトンボが飛来しました。近隣の生態環境悪化から絶滅が懸念されますが、引き続き専門家の指導も受けながら保全に努めていきます。



ヨツボシトンボ

6月にはヘーベルビオトープが、NPO法人日本ビオトープ協会主催の「第10回ビオトープ顕彰」で大賞に次ぐ「CSR特別賞」を受賞しました。これは、国内各地におけるビオトープ創りの取り組みを一層進め、その啓蒙を図るために、規範となるビオトープを全国から募り、優秀な取り組みを表彰するものです。



ビオトープ顕彰授賞式

コンテナビオトープを設置

2017年4月には、止水性トンボ(溜池などの止水に生息し、産卵を行うトンボ)の保全・研究を目的として、滋賀工場敷地内にコンテナビオトープを設置しました。

コンテナビオトープは、プラスチック製コンテナに、地下水を入れ、ヨシなどの簡単な植栽を施したものです。

11月に行ったコンテナビオトープにおけるヤゴ調査の結果、ハ

ラビロトンボやアジアイトトンボなどの止水性のトンボ6種、500個体を超えるヤゴを確認することができました。



コンテナビオトープにおけるヤゴ調査の様子

普及啓発活動(従業員向け)講演会および観察会の開催、活動広報紙の発行、等

2017年6月23日に開催した、全社員参加の社内RC大会において、琵琶湖博物館の学芸員から「企業活動と生物多様性保全との関わり」についてご講演いただきました。



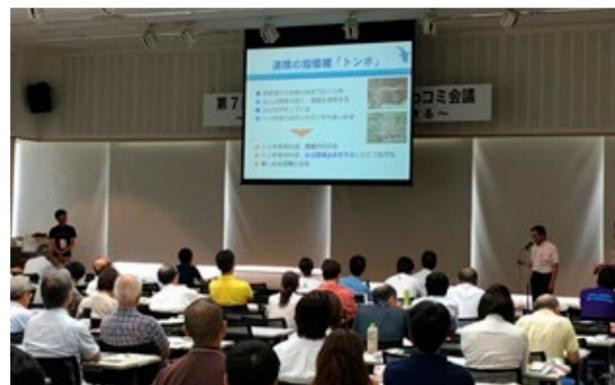
社内RC大会での琵琶湖博物館学芸員による講演会

また、昼休みの時間を活用した観察会の実施や、社内向けの生物多様性保全活動広報紙「いきものつうしん」を、月2回を1年間、通算24号に亘って発行し、社内30カ所に掲示して社員への啓発を行っています。

びわこミ会議でネットワークの活動を発表

2017年8月、コラボしが21で開催された、滋賀県主催のマザーレイクフォーラムびわこミ会議において、「生物多様性 湖東地域ネットワーク」の活動発表を行いました。

西嶋栄治滋賀県副知事は、「異業種の企業が連携し、同じテーマ、ターゲットを掲げ活動することは素晴らしい。」と講評されました。



2017.8.26びわこミ会議で発表

「しが生物多様性大賞」を受賞

2018年2月、水との関わりが深く滋賀県らしい「トンボ」をテーマにした「トンボ79大作戦！」の活動実績が高く評価され、「平成29年度 しが生物多様性大賞」を受賞しました。



2018.2.7 しが生物多様性大賞受賞式

また、2018年3月には、「トンボ79大作戦 湖東地域のトンボを救え！」が、国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)から連携事業認定(第12弾)を受けました。

これは、平成22年10月に開催された生物多様性条約会議(COP10)で採択された、2011-2020の世界目標「愛知目標」の達成に向け、各セクターの参加と連携を促進するために行われるものです。



国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)ロゴマーク

工場における化学物質管理の取り組み

旭化成住工では、生産段階での都市ガス使用による大気汚染、工場排水による水質汚濁について、いずれも定期測定を実施し、法規制値を大幅に下回っていることを確認しています。

化学物質については、トルエンとキシレンがPRTRの対象物質となっています。

2017年度より運用を開始した廃シンナー蒸留再生装置導入に伴い、トルエンは10,000kg/年で前年度比約15%、キシレンは2,700kg/年で前年度比約3.7%それぞれ削減しました。

また、2015年4月より改正施行されたフロン排出抑制法に基づいて、業務用エアコンや冷凍機について簡易点検および定期点検を行うことで、フロン類の漏えいがないことを確認、記録しています。



廃シンナー蒸留再生装置

化学物質管理の取り組み

化学物質管理に関しては、RCマネジメントの一環として、独自の「ガイドライン」により運用してきております。室内空気質管理に関する運用方法を「化学物質細則Ⅰ」、労務安全に関わるリスクアセスメントを「化学物質細則Ⅱ」として、その内容および運用管理体系を規定し、住まいづくりの各段階で化学物質を適正に管理するよう努めています。室内空気質管理では、重点とする化学物質ごとに管理目標値を設定し評価する具体的方法を定め、資材メーカーを含め組織的に建築資材の化学物質リスクを管理できる体制としました。またリスクアセスメントでは、2016年6月に施行された改正労働安全衛生法にも対応し、扱う部材の危険有害性を作業者に周知し、健康被害を防止することを目的としています。

木材調達における取り組み

ヘーベルハウスは構造部分には木材を使用しませんが、下地材や内装材として年間約5万㎡の木材を使用しています。2017年より「合法伐採木材等の流通および利用の促進に関する法律(グリーンウッド法)」が施行されましたが、ヘーベルハウスでは以前よりRC管理実施規程(環境保全関連)のひとつとして「合法伐採木材利用ガイドライン」を策定し、森林生態系の保全に配慮した責任ある木材調達に努めています。特に国産材の利用を積極的に推進しており、国産材および主に国産材を用いた合板等の使用量が全体の約4割に達しています。またその他の木材についても、より持続可能性に配慮した調達を確保するために、取引先とのコミュニケーションを深め、必要に応じて実際に現地に足を運ぶための調達状況の確認も行っています。今後も「木材グリーン調達方針」に従って、より環境負荷の少ない木材調達を目指した取り組みを進めていきます。

木材グリーン調達方針

1. 合法伐採木材を調達する
(森林供給源が明らかで、適切に管理された木材)
2. 森林生態系の保全に配慮した木材を調達する
(森林生態系や貴重な天然林等を破壊しない伐採による木材)
3. 絶滅の恐れがある樹種(絶滅危惧種)以外の木材を調達する
(国際条約で制定されている絶滅危惧種以外の木材)

お客様のために

2017年度は、よりお客様にご満足いただくために、新たな体制づくりや生活サービスの提供を行いました。すべてのヘーベルハウスのお客様に「生涯安心できる《住まい》と《くらし》を提供できる」ようにこれからもオーナーサービス体制を強化していきます。

お客様との接点を増やし、信頼を築く

オーナーサービス推進本部 体制表



当社オーナーサービス部門では、すべてのお客様にご満足いただくためにさまざまな取り組みを行っています。全国のお客様へのサービスを統合する本社オーナーサービス推進本部は常にお客様とエリア担当の声を聴き、連携を深めお客様に生涯安心できる《住まい》と《くらし》を提供できるように取り組んでいます。

点検品質の向上

認定点検技師によるきめ細かい点検 ～家は建てた後が大事なんだ～

ヘーベルハウスのロングライフプログラムに基づく定期点検は、一定の知識と技術を習得した「認定点検技師」という社内認定資格者が点検を行っています。この認定点検技師制度は、定期的な更新試験を行い、知識や技能の確認だけでなく、安全やマナーについても確認を行っています。

認定点検技師の心得(抜粋)

- 1 定期点検やアフターサービス業務を通じて、お客様の満足度「旭化成の住まい」の暮らしの中で高める
- 2 認定点検技師は旭化成の顔であることと常に認識し、自覚をもって行動する
- 3 旭化成で定めている安全基準を遵守し、常に「安全第一」で業務を遂行する

点検を通してお客様の暮らしの変化に対応

定期点検を通して、ヘーベルハウスの躯体や設備のハード面だけでなく、ソフト部分であるお客様の生活スタイルやニーズの変化に即した対応ができることを目指し、認定点検技師は新しい商品やサービスの知識習得に努めています。例えば、点検技師が実際

に使用し良かったお掃除道具を当社の通信販売に採用し、ヒット商品になった事例もあります。

当社の住宅設備交換サービスである「Re-設備」は、お客様の生活スタイルに合わせた商品提案を行い、安心・確実な施工品質を実現するばかりでなく、10年間という長期保証をお約束する「ロングライフ住宅設備保証」を付帯しています。お客様がより長く、快適に安心してお住まいいただくためのサービスとなっています。

お役立ちフェア

設備交換を検討しているお客様から、さまざまご相談をお受けしています。「自分の家に合った商品をプロに選んでもらいたい」「工事によって建物に影響が出ないか不安だ」そんなお客様のご相談に答えるため、各エリアでは「お役立ちフェア」を定期的に開催しています。さまざまなメーカーの商品を実際に見て触れていただけるとともに、お客様の建物を知り尽くした当社の担当者が最適な商品を提案するイベントで、毎回多くの方にご参加いただいています。



お役立ちフェアの様子

ITを活用した生活サービスの提供

ヘーベル光

2016年6月からスタートした、光アクセスサービス「ヘーベル光」。NTT東日本・西日本の「フレッツ光」のサービスを、ヘーベルハウスのご入居者様専用のサービスとして独自にカスタマイズし、提供を行っています。割安な料金とともに、受付から工事手配、アフターサポートまで旭化成でワンストップ対応できることから、好評を得ています。また、光回線の開通工事において、通常の会社では行わない情報分電盤の中の配線・設定等まで行うことで、スムーズな開通を実現しています。

ヘーベル光ブックストア

2018年1月から、「ヘーベル光」のご加入者様を対象に、「ヘーベ

ル光BookStore』をオープンいたしました。書籍の大手卸会社である株式会社トーハンと提携し、インターネットのショッピングサイト「e-hon」で本や書籍を購入いただくと、ご購入額に応じて割引がされるという仕組みです。「ヘーベル光」の課金の仕組みを活用した新しいビジネスモデルとなります。また、新たなサービスとして、電力自由化を受けて「ヘーベル電気」の提供を2018年4月よりスタートしました。今後もご入居者様の快適な生活のために、さまざまなサービスを提供してまいります。

「HEBEL HEMS」を中心とした創蓄連携、IoT設備によるスマートホームの推進

ヘーベルハウスでは、「HEBEL HEMS」を2016年5月より販売を開始し、太陽光発電システム搭載住宅を中心に、累計約5000台を設置しています。「HEBEL HEMS」によって蓄積された生活エネルギーデータをもとに、さらなるCS向上を図っていきます。

HEBEL HEMSの特徴

1 エネルギーの見える化

太陽光発電の発電量、売電量、消費電力、分電盤各回路の使用電力量の使用状況を「見える化」することにより、家族のエコ意識を啓蒙し、省エネ活動をサポートします。



HEMS画面

2 創蓄連携システムによるEcoな暮らしのサポート

HEMSと連携した「太陽光発電・蓄電池マルチシステム」が利用できるようになりました。これによって「経済性優先モード」や「環境貢献優先モード」等お客様のニーズに合わせて電力消費の節約が可能になります。

3 利便性向上による先進的な生活(スマートホーム)の実現

HEMSとエアコン、シャッター、エコキュート等の住設機器とがネットワークにてつながり、HEMSモニターから集中管理、操作が可能になりました。インターネットを利用し宅外からもこれらの機器をスマートフォン等によって遠隔確認、操作ができます。また、高機能タイプインターホンの導入により、高齢者の介護問題、共働き世帯における鍵っ子対策等へのサポート、社会問題になりつつある宅配便の再配達問題への対応(大人不在時の対応)や支援が図られます。

4 TVを楽しみながらEcoな生活実現

さまざまな機能を持ったHEMSを末永く使っていただくために、エ

ンターテイメント機能により日々の生活を楽しくサポートします。

つながるコールセンター

全国8カ所の「ヘーベリアンセンター」では、年間約27万件のお客様からのお電話を受けております。ヘーベリアンセンターでは、電話のつながりやすさが大切と考え、さまざまな改善活動を重ねてきた結果、現在では常に約95%という高い応答率を達成しています。電話のつながりやすさは、日常にとどまらず、地震や水害などの緊急時にも担保できるよう準備をしています。例えば、自然災害等で特定のヘーベリアンセンターの受電数が増大し応答率が下がってしまった場合、電話の一部をほかのヘーベリアンセンターが代理で受電するという、「広域受電システム」を整備しました。

実際、大阪府北部地震が発生し、関西の応答率が低下した際には、受けきれないお電話を東京と名古屋で受電し、ひとまずお客様に安心していただくことができました。

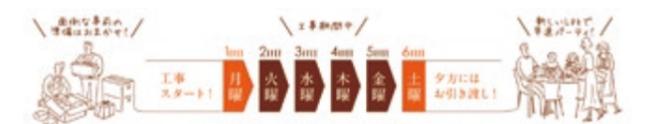
また、自然災害に対しては、関連部場が速やかに効果的に対応できるよう、「災害対応マニュアル」を作成し運用しています。各部署の役割や、具体的な行動について予め決めておくことで、万一のときも、スピーディーに災害対応の体制を整えることができます。

快速LDK

旭化成リフォームでは2017年度夏に新商品としてLDKのリフォームの工期を半分にしたリフォームパック「快速LDK」を発売しました。一般的にLDKのまとまった範囲の改装は12日以上かかるものですが、この「快速LDK」は、改装範囲や工程の見直しや施工技術を向上させることによって、工期を6日に短縮することができました(月曜日着工で土曜日に完成)。家具、家財の片付けを当社が行う「荷造り・荷ほどきサービス」も標準仕様となっており、お客様の負担が少ないサービスになっています。また、工期を大幅に短縮できたことで工事費もリーズナブルになり、お客様のニーズを満たす商品です。

ご高齢の方や共働きの方に大変好評で現在、発売以来280棟以上の受注をいただいています。

今後もお客様の顕在的・潜在的なニーズを的確にとらえ、快適、安心な生活を続けられるリフォームを提供していきたいと考えています。



快速LDKによる工期短縮

より良い品質のために

旭化成ホームズグループは、お客様に安心して快適にお住まいいただくために、主要部材の工場と施工現場の両方で、品質管理を徹底しています。

工場における品質管理の取り組み

ヘーベルハウスの品質を確保するためには、多くの部材を生産・加工する工場での品質管理が不可欠です。旭化成ホームズグループの各工場においては、ロングライフ住宅を支え、お客様に信頼いただける製品をご提供するために、さまざまな品質管理の取り組みを実施しています。

旭化成住工の取り組み

ヘーベルハウスの構造体である柱、梁、制震フレームや屋根パネル、断熱材、開口パネル、ユニット配管などの部材加工を行う旭化成住工では、以下の取り組みを行っています。

■3H管理強化

「初めて」「変更」「久しぶり」の頭文字を取って「3H」と呼びこの言葉をキーワードに管理強化しています。

「初めて」「変更」では新規規定や仕様変更時などの初期流動管理を徹底しています。QC工程表に基づいた製作工程の確認、製造設備・組立治具のポカヨケ機能の確認、検査項目の確認を確実にいきます。「久しぶり」では、急な作業変更で実際にミスが発生したこともあり、特に注力しています。主担当者の不在時や急な欠員時は、申し送りのルールを決め、確実な情報伝達の仕組みを構築しました。製品については低頻度の部材製作時にポイントとなる箇所を明確にして作業指導を確実にいきます。

また設備の新設時や大規模な改修を伴う場合は旭化成ホームズ生産技術室と一体となり、さらに厳しく工程監査を実施しています。

■製造部門の総合優秀表彰制度

今年度より、工場の製造部門に求められる本質的指標である①安全 ②品質 ③生産性 ④コストダウンについて、総合的に評価し、製造部門の総合力を向上させる目的で「総合優秀表彰制度」を導入しました。最前線の製造部門において、健全な競争心が生まれ品質のみならず総合的に現場力を向上できるよう期待しています。



Voice

技術力向上で絶対的な品質保証を!

旭化成住工
第一製造部 製造四課
國領 利晃



工場ではFREX柱・梁の溶接を担当しています。主にロボットによる溶接ですが、厚さ22mmの柱(C0柱)の溶接は自動化できず、厳しい社内資格認定に合格した5名のみが手溶接を行っています。私の使命は、弊社の強みである溶接技術力をさらに向上させ、次世代に伝承することだと思い、日々技術訓練と指導を行っています。このような技術力向上活動を通して絶対的な品質保証でヘーベルハウス躯体の信頼性向上に貢献していきたいと思っています。

旭化成建材の取り組み

外壁材・屋根・床版(ヘーベル)を生産する旭化成建材では、以下の取り組みを行っています。

■2017年度の実績 報告

品質管理の実績は、品質管理月報を旭化成ホームズに送付し確認を依頼しています。2017年度において、境工場、穂積工場、岩国工場は定期的に旭化成ホームズと品質会議を開催して品質管理項目の結果の評価について情報を共有し、大きな成果を得ました。

Voice

常日頃、品質向上を念頭に置いた生産活動を

旭化成建材 建材生産センター
岩国工場 環境安全・品質保証課
小林 誠二



西日本の生産拠点である岩国工場では、旭化成ホームズ向け製品として床版を生産しています。生産活動では、お客様のご要望にお応えするために、常日頃より外観品質・製品性能の向上を念頭に置いた生産活動を展開しており、旭化成ホームズを中心とするお客様より高い評価を得ています。今後も、お客様にご満足いただける製品造りを目指し、より良い製品を確実にお客様にお届けする生産活動に取り組んでまいります。

施工現場における品質管理の取り組み

品質管理の取り組み(新LLQCS)

施工現場において高い品質を安定して維持していくためには現場での検査体制の確立が非常に重要です。当社では2013年に発行した独自のロングライフ住宅品質管理システム(LLQCS:ロングライフクオリティコントロールシステム)を基本的な考え方として規定しています。

現場での品質検査は、作業手順と同様に、本社にて検査における手順と検査内容を明確に規定し、漏れのない検査が確実にできるように教育を実施しています。特に構造上最も重要な、基礎・躯体工事の品質と完成品質の検査に関しては、管理者に対して検査員制度を設け、検査員の資格が取得できなければ、検査することができないルールとしており、その取得には厳しい基準を設けています。

新たに2018年は「A-Skai工事報告書システム」を導入しました。これはタブレットを利用してチェックシートの記入や施工写真が掲載できるシステムとなっており、導入によって以下の効果をあげることを目指しています。

- ① 工事報告書業務の品質向上と時間短縮
 - 事務所⇒現場完結業務で無駄を削減
 - 職方自ら写真登録により写真取得や整理手間削減
 - ペーパーレス運用を実現し、紙出力や送受信の手間削減
- ② エビデンスの確実な記録・保管
 - 電子化での自動保管によりエビデンス紛失防止

Voice

より確かな品質管理を目指して

施工本部 建設部 東京第二建設課
主任施工技術士
林 吉紀



施工現場での品質管理は、お住まいいただくお客様にご安心いただくこと、自信を持って大丈夫と言えること、施工記録の正確なエビデンスを残し建物の価値を高めることが重要だと考えています。ヘーベルハウスの施工管理では、新LLQCS、A-Skai工事報告書システム等、確実に実行することで品質を確保できる環境が整っています。私は、その基本行動を確実に実行するとともに、さらに建物の価値を向上できる方法が無いかを考えながら日々の業務に取り組んでいます。また我々建設部は、大型・中層物件における「新しい施工方法と監理を提案し実現させる」ことにも取り組んでおり、主任施工技術士としても関わりながら、将来のヘーベルハウスの形を創っていきたくと思っています。

木工技能研修所

旭化成住宅建設では新規採用社員職人(大工)の研修施設を開設し4年目を迎えました。1年間の研修では安全最優先のもと、講師陣OJTによる施工実習と座学を繰り返し、技能・知識の習得、品質の向上を目指します。また「凛とした現場づくり」に向け社会人マナー、CS、5S、産廃適正処理等の教育も受け、2017年度は研修生17名が修了しました。2017年度は研修生の力量差対策と苦手分野の早期克服に重点を置いて活動しました。各実習ごとにチームや個人の品質検査、仕様の確認テストを小まめに行い、研修生によって異なる未熟練作業や仕様の理解度を早期に把握し、個別指導を繰り返しました。また各作業ごとの生産性目標値の提示、5Sの徹底、無駄を省く意識の育成により成長を感じられる研修となりました。これらの活動を通して2017年度研修生の実績は、対前年比で品質が1割増、生産性が2割増と向上しました。引き続き研修生が安全、品質、生産性などあらゆる面で現場即戦力へと成長できるよう、研修生の技能・知識の向上を進めていきます。



技能研修所での訓練

設計現場における品質向上の取り組み

営業設計部のエクステリア環境向上の取り組み

住宅のエクステリアは屋内と外部の環境を結ぶ大切な空間です。旭化成ホームズはすでに『まちもり』計画という、ミドリを中心とした庭づくりを発表し環境の向上に努めてきました。一方で、使いやすさという視点での庭づくりも環境や住まいの品質向上に欠かせません。都市の住宅で重視しなければならないのが、車の駐車に関する配慮です。道路や周辺の土地に余裕のない都市では、前面道路幅員、交通量、障害物の有無を考慮して駐車場の幅員や隅切りなどを設計する必要があります。このような気付きは机上で学ぶより、体験で覚える方が効果的と考え、実地で車庫入れを体感する研修を実施しています。可動壁を境界に見立て仮想の車庫や道路の幅を変えながら社員自らが車を操作し、実体験で出し入れの難しさを学ぶというものです。設計経験の少ない社員を中心に、単なる知識で終わらず「知識を知恵に」進展できるような、勉強会や研修の努力を続けています。



設計担当者の車庫入れ体験研修

労働安全衛生の取り組み

旭化成ホームズグループは『業界最高水準の「安全な現場と人」をつくりあげ、ゼロ災を達成する』ことを目標とし、特に重大災害につながる墜転落災害の撲滅に取り組んでいます。

現場における安全確保の取り組み

「凜とした現場づくり」

2016年から「凜とした現場づくり」を全社で取り組むスローガンとして労働災害撲滅を目標に活動を行っています。

活動のキーワード

整然	現場の整理整頓や安全通路を確保すること、ガードフェンスを真直ぐに設置すること
気遣い	近隣の方に対する配慮や、新規入場者に怪我をさせないよう気遣うこと
マナー	全員が気持ちよく挨拶をすること（もちろん近隣の方にも挨拶をします）
ブランド	旭化成のブランドを築き上げること

2017年はこれらのキーワードをもとに本社において凜とした現場の基準を定め、現場パトロールを行いました。その結果は社内ホームページに掲載し、良い活動の水平展開を行いました。これらによって2017年度の労災は2割減少し、物損事故は半減させることができました。2018年度からは重点活動を「シートをピント、心もピント、現場をキチント、ルールもキチント」として活動を開始しました。これにより「凜とした現場」の活動をさらに向上させていきたいと考えています。



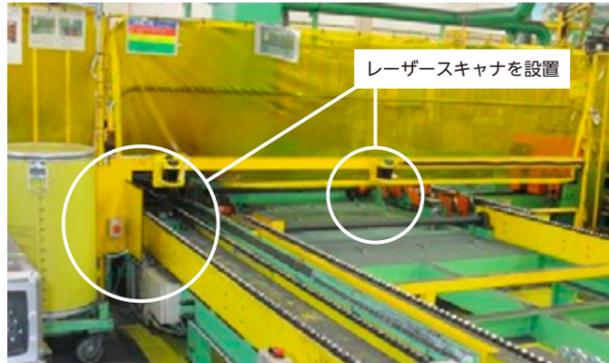
整理された現場（現場をキチント）

工場における労働安全衛生の取り組み

旭化成住工では、「絶対安全の達成」を目標に、施策として『基本行動(P)の徹底』『作業環境改善』を念頭に置き、当たり前のことを確実に行う集団としての意識とさらなる向上に取り組んでいます。

機械設備リスクアセスメントによる挟まれ・巻き込まれ対策継続実施

- 1 独立している2台のコンベアにレーザースキャナをそれぞれに設置することで作業者の進入禁止エリアを設定し、そこに入ればコンベアが緊急停止する仕組みとしました。
- 2 進入禁止エリアの床面をペンキで塗り潰し、見える化を行いました。



作業環境改善

『粉じん対策』として、フィルター付き防じんマスクを電動ファン付き呼吸用保護具に変更し、粒子捕集効率は最高水準の99.97%となったことに加え、頭上からエアが吹き出し保護具内の熱が抑えられます。また、従来のフィルター付き防じんマスクは皮膚に密着させる必要がありましたが、電動ファン付き呼吸用保護具は全体を覆っているため顔面との間に空間ができ、快適な状態が確保できました。



2017年度も作業環境改善を目指し取り組んできましたが、今後不安全行動(人の行動)に視点を置き安全教育・訓練を繰り返すことで「当たり前のことを確実に」行う集団として快適で動きやすい職場作りに邁進していきます。

お取引先とのかかわり

旭化成ホームズグループは、取引先の皆様とのネットワークやコミュニケーション活動を充実させることにより、信頼ある関係を構築していきます。

パートナー会社との協力による品質向上

住宅建築の現場では国内外のメーカーから非常に多くの種類の部材の供給を受けています。当社では、海外工場を含む現地に実際に足を運んで、法令遵守・品質に関する確認や改善活動を行っています。これまでも、国内のみならず、主に中国や東南アジアなど各国の工場に赴いて、材料調達先やJIS・JAS・大臣認定などの要件確認、労働条件や法令遵守の状況の確認などを実施してきました。

改善活動では、取引先とともに協力しながら品質や生産性の改善を進めています。また取引先間の情報交流もしばしば行われており、当社が橋渡しとなって、国内外の協力工場同士で、時には国をまたいで、互いに訪問し情報交換をしながら改善を進めることも行われています。

これら取引先の状況は、購買先評価として毎年継続的に評価を実施しながらサプライチェーン全体の強化に取り組んでいます。

「緑の会」全国連合会

2017年7月、これまでエリア営業本部ごとに活動をしていた工事店代表者で組織されている「緑の会」を一堂に会し全国連合会総会を開催、以下の趣旨で活動を開始しました。

全国連合会活動趣旨

- 1 施工力の確保の情報交換
- 2 自然災害時の施工力応援
- 3 受注につなげる紹介活動の促進

特に高まる自然災害リスクは、当社と協力工事店である会員全体の事業継続にとって大きな課題であり、全国規模で相互応援できる体制を整えることが重要です。総会では以下3点について実施することで合意がなされました。

自然災害への応援体制の構築

- 1 工事店、職方連絡網の整備
- 2 初動応援部隊の動員順番リスト作成（職種別）
- 3 応急仮設住宅の施工棟数の割付検討

2018年11月に第2回総会を開催し、より強力で連携を高め、協力会社の皆様と持続可能で強固な事業体制をつくり上げていきます。



「緑の会」全国連合会総会

「優良ドライバー認定」制度

物流の安全および品質を向上させるため、「優良ドライバー認定」制度を制定しました。運搬する部材の区分を、「鉄骨」「ヘーベル」「開口パネル」「内装部材」の4区分とし、現場においてドライバーの作業内容の評価を行い、安全品質パトロールシートの評価基準に照らして達成率が100%と認定された場合、「優良ドライバー」として認定しています。

この制度はドライバーのモチベーションアップにつながっています。また、優良ドライバーがほかのドライバーの模範となることによって、物流の安全および品質向上のための相乗効果を期待しています。



優良ドライバーに送られる「認定証」

社会に関する取り組み 社員とともに

旭化成ホームズグループは、すべての社員がいきいき働き、能力を発揮するためのさまざまな制度や、能力開発に向けた取り組みの整備を行っています。

旭化成ホームズの人財活性

当社の人事部のミッションは「健全で、社員が成長し続ける会社風土を構築する」ことです。現在、そのためにワークライフバランス向上、シニア社員・女性社員の活躍推進に重点的に取り組んでいます。また、旭化成ホームズの求める人財像は「目標を達成するために、ひたむきに努力し、自らの人間力を磨き続けられる人」です。それぞれの社員の人生のステージや生活スタイルに合わせた働きやすい環境を作り、成長を助けることによって、社員が活躍できる職場を目指していきます。

社員の能力開発に向けた取り組み

個人の自律的成長支援

1 職種別スキルナビゲーションの運用

入社後、早期に担当として一人前になるために、年次ごとの成長イメージ～スキルナビゲーションを作成しています。営業、設計、工事、IA（インテリアアドバイザー）とそれぞれの職種に求められる専門知識・スキルの細目とレベルを一覧表にし、成長の全体像の中から、各人の能力に応じて、次の目標を立てる羅針盤として役立てています。また、このスキルナビゲーションに応じて、該当年次の成長イメージから研修の内容を決定し、年次研修を計画しています。研修の修了の都度、本人と上司で能力評価を行い、次の目標を立てていきます。

2 年次研修の実施

スキルナビゲーションをもとに行っている年次研修は、社内でプログラムを制作し、社内講師が実施しています。それぞれの職種の先輩社員が講師となり若手社員に手本を見せ、適切なアドバイスを行います。参加者は普段は直接かわり合わない先輩社員からさまざまな視点のアドバイスを受け、大いに刺激を受けています。研修には、コンプライアンスなどの内容も含まれ、仕事とコンプライアンスの関連や、意識の醸成に役立っています。また、講師として参加する先輩社員にとっても、これらの研修は大きな刺激となっています。

3 キャリア研修の導入

当社が求める人財「目標を達成するために、ひたむきに努力し、自らの人間力を磨き続けられる人」の育成のため、社員の能力開発

に力を入れています。そのために、自身のキャリアを中長期的な目線で考え、自らの成長するモチベーションを保つためのキャリア研修を階層別を実施しています。2013年度に開始した50歳キャリア研修にはじまり、女性総合職4年次、実務職5年次と対象者を拡げ、2017年度は新たに総合職10年次のキャリア研修をスタートさせました。

今後は、現在キャリア研修の対象となっていない40歳代も対象としてキャリア研修のラインナップを整えていく予定です。

研修内容(概要)



職種別スキルナビ(概要)

営業	3年次	●1・2年次の内容がより短時間でできる ●営業活動が自分一人の判断で推進できる……
	2年次	●スケジュール管理ができるようになる ●一人でも折衝・引継ができるようになる ●引渡を経験し、仕事の流れを掴んでいる……
	1年次	●商品を好きになり、接客で商品の良さを伝えサービスができる……
工事	ステップ5	●工事課員、工事店の育成ができる。 ●工事担当業務の課題を指導、解決できる。……
	ステップ4	●工事課の柱となり物件管理が効率よくできる。 ●工事店をメインで担当し、問題解決ができる。……
	ステップ3	●工事担当が必要な知識が確実に理解できる。……
	ステップ2	●物件管理が一人でする。 ●検査等決められた行動をやりきる習慣が持てる。……
	ステップ1	●工事担当業務全般の正しい流れが一通り理解できる。

資格取得支援

住宅のプロとしての社員・組織を目指す一環として、当社は住宅事業において有益な国家・公的資格を、社員全員が早期に取得できるよう支援しています。将来の住宅・不動産市場に対し、新たな事業領域を開拓するため、多くの社員が資格を取得することは、会社の発展にとっても、社員個人が生涯にわたって成長し、活躍し続けるためにも大変有益であると考えています。当社においては、事務系社員は宅地建物取引士、技術系社員は一級および二級建築士を軸に資格取得を推進しており、加えて、ファイナンシャルプランナー一級および二級建築施工管理技士、インテリアコーディネーター等、各種資格取得に際し、通学・通信学習への支援制度、合格者に対するの受験、登録料、祝い金等の充実した支援制度を設けています。

女性活躍の取り組み

エリアミーティングの開催

2017年度より若手の女性総合職(1年目～5年目)を対象としたエリアミーティングをスタートさせました。これは、2016年度の女性社員による「新しい働き方を考えるプロジェクト」で議論された「女性社員が気軽に情報交換・働き方の相談ができる場がつかれないか」という提案がきっかけとなり実現しました。各エリアのまとめ役の先輩社員が中心となり、先輩社員の事例紹介や情報交換を行い、2017年度は全国で合計105名が参加しました。今後も継続して開催し、先輩社員とゆるやかなメンター・メンティの関係をつくることで、若手の定着、活性化につなげたいと考えています。



エリアミーティングの様子

参加者の声

- 育休から復帰後も成果を上げ続けている先輩がいるのは非常に心強いなと思いました。
- 先輩社員の発表を聞いて、限られた時間の中で、色々工夫されているなど感じました。また明るく、ポジティブで刺激を受けました。

4年次キャリア研修の実施

旭化成ホームズグループでは、自分らしくいきいきと働き続ける女性社員を増やすために、女性の多様なライフイベント(転職)を柔軟に乗り越え成長し続けるためのサポートを行っています。2015年



4年次キャリア研修の様子

度より、入社4年目の女性総合職を対象とした「入社4年次キャリア研修」を導入しており、2017年度は12名が参加しました。この研修は、視野を拡大し、自分の軸を持つことによってさまざまな転職を柔軟に受け止め、自分が実現したいことと、そのために「今やること」を明らかにすることを目的としています。

受講者からは

- この先、進んでいく安心感を得られた。
- 同期とともに改めて仕事への想いを感じ、働く意欲が高まった。など前向きな感想が多く、有意義な機会となりました。

女性の総合職転換

当社では採用時に社員を総合職(事務系・技術系)と実務職に区分しています。これに対して、入社後に本人の意欲と能力に応じて職務領域を広げ、ステップアップを図る機会として、実務職から総合職へのコース転換制度を設けています。総合職は全国への転勤があることから、このまま将来にわたって現在居住地で勤務し続けたいというニーズに応え、2010年度に総合職B(エリア総合職)を新設しました。総合職Bには、総合職・実務職の双方から転換できます。直近では2018年4月に、4名が実務職から総合職へと転換しました。今まで培った能力、強みを活かして活躍しています。

女性活躍の現場から

これまで男性が中心であった営業の現場でも活躍する女性が増えていきます。チームマネジメントを担う女性も少しずつ増えており、現在、新築で4名、リフォームでは3名の女性が営業課長(リーダー)の役割に就いています。営業の現場に女性の意見やアイデアが加わることで、お客様にとってより魅力的な住まいのご提案ができるのはもちろん、多様性を認め合う職場風土の醸成にもつながっています。

Voice

新築請負の現場で初のママ営業課長

東京営業本部 東京西支店 営業課 課長代務
吉田 彩乃



次男と

私が新人の頃、まさか自分がリーダーになれるなんて夢にも思っていませんでした。でも、たくさんのお客様、協力の皆さん、家族に支えられて、この仕事を継続することができ、このような機会を与えてもらえました。

私のモットーは、仕事は全力で取り組み、家事・子育ては程々に、プライベートは大切に、です。家は、お客様にとって一生で一度の大きな買い物ですので、家づくりが楽しい思い出になるように、これからも全力で頑張ります！

下の写真は、今年の誕生日に家族からもらったケーキと手紙です。長男からのコメントに「課長としてチーム彩乃を引っ張ってください」と書いてあり笑えます。



ワークライフバランスへの取り組み

働き方改革

長時間労働削減に向けた社会的要請を背景のひとつとして、2015年11月、「働き方」に関するホームズ方針が掲げられました。

- 1 正々堂々と「生産性」で競い合う。
- 2 チーム一丸となって「改革」に取り組む。
- 3 「36協定」は絶対に守る、守らせる。

各本部単位で業務改革に向けた取り組みを推進していくとともに、2017年4月には全社横断での改革実現に向けて、社長直轄組織として「働き方改革推進室」を設置しました。

ITを活用した業務改善

生産性向上を目的に、本社スタッフ・営業本部と連携し現状分析・課題抽出を実施しました。そこから見えてきた、「業務に即した、現場が望むITが提供されていない」という課題解決に向け、2018年4月、業務IT化プロジェクトを情報システム部に設置することになりました。業務の中で発生する図面や文書を、どこからでも参照・編集・保存・共有できるシステム構築を検討。業務の流れを良くすることで生産性向上を図るとともに、時間を効率的に利用するために場所の制約がない働き方の実現を目指します。

育児・介護支援制度

当社では家庭と仕事の両立を積極的に支援し、社員の生活をより充実したものにしていくための取り組みを行っています。お客様に暮らし方を提案する当社だからこそ、社員の充実した暮らしを支援することが大切だと考えています。

当社の育児休業制度は法律で定められた期間よりも長く、最長でお子さんが3歳到達後の4月1日まで取得可能としており、育児のための短時間勤務は、最長でお子さんが小学校6年生まで利用可能としています。2017年度は170名(男性が35名、女性が135名)の社員が育児休業制度を利用し、男性の育児休業取得者数については昨年と比べると13名増加しました。

また、育児休業から早期復帰した社員がより安心して仕事に復帰できるよう、仕事と育児の両立のサポートとなる早期復帰支援金の支給を2015年度より開始していますが、2017年度に復帰した社員の44%が早期復帰支援金の対象となりました。

これらの取り組みにより、子育てをしながら活躍する女性が増加し、2018年4月末時点で育児休業から復帰して働く女性社員(※正社員)は、22%となりました。事務職に比べて時間が不規則といわれる営業職や設計職での復帰も増えています。

今後もこれらの制度が利用しやすい環境を作り、社員の働きやすさ向上に取り組んでいきます。

Voice

男性社員の育児休暇取得

育児取得期間
2017年10月1日～2017年11月30日

技術本部 第一技術部

高島 健史



30代は仕事が充実してくる時期ですが、生後1か月の子供と2か月間も過ごせる機会は人生で二度と無いだろうと、思い切って育休を取りました。共働きで家事はもともと分担しており、子供も早い時期に馴染んでくれたので、産休・育休中の妻にはゆっくりと昼寝をしたり、買い物に出かけたりしてもらうことができました。育休中に一番印象に残ったことは、生まれてすぐの子育ては家に閉じこもってしまうため人間関係に限られ、外とつながりを持つことが非常に貴重で大切だと感じたことです。男性でも子育てをサポートできる育休だけでなく、共働きでもお互いが仕事を続けられるよう、より働きやすい環境が整うことに期待したいです。

ES相談窓口セクハラ相談窓口の設置

1 ES相談窓口

旭化成ホームズは、社員がいきいきと仕事ができる環境作りのため、2004年8月にES(従業員満足)相談窓口を設置しました。旭化成ホームズグループに勤務する方すべてを対象とし、職場の問

題、会社への意見・要望、個人的な悩み、改善提案等に対して守秘義務のもと対応をしています。

2 セクハラ相談窓口

旭化成ホームズでは、就業規則でセクシュアルハラスメント等を明確に禁止するとともに、支店長会議などの場を利用し、随時、注意喚起を行っています。また相談窓口を設け、正社員、契約社員、派遣社員を含めたすべての方からの相談を受け付け、対応を行っています。

勤務地配慮申告制度・退職者復職登録制度

多様な状況を抱えた社員の活躍推進施策として、以下2つの制度を運用しています。これらが、貴重な人財の流出を防ぎ、長く当社で働いていただく土台のひとつとなることを期待しています。

1 勤務地配慮申告制度

育児・介護・配偶者転勤等、会社が認めたいやむを得ない事情により、通勤圏外エリアへ転宅せざるを得ない社員が、転宅先から通える勤務地での継続勤務の希望を申告することができる制度です。2015年4月の制度運用以降、すでに15名の社員がこの制度適用によって新しい勤務地に異動し活躍しています。

2 退職者復職登録制度

上記制度と同様、やむを得ない事情により退職せざるを得ない社員が、退職後の状況変化で復職可能になった場合に、会社への復職を申告できる制度です。2017年4月からは対象を総合職にも拡大し、合計で約40名の社員が登録しています。

ベトナムからの技能実習生の受け入れ

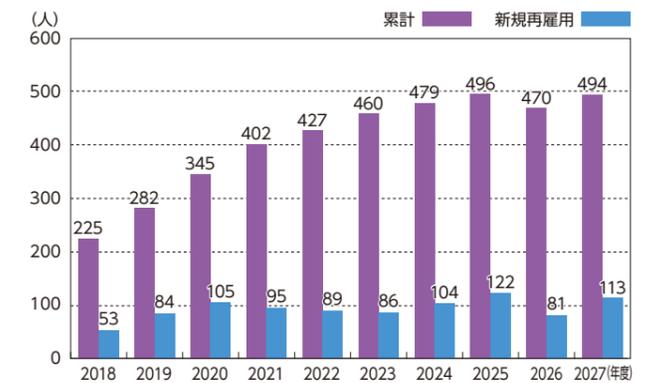
旭化成住宅建設では、2015年10月に13名、2016年10月に6名の技能実習生を受け入れました。2015年の13名は2018年8月で実習期間が満了し一旦帰国しますが、技能が向上した6名については「建設就労者」として10月以降再度入国し引き続きともに働く予定で現在、国土交通省の手続きを進めています。また2018年10月には新たに2名の技能実習生を迎え入れる予定であり、確実な戦力として活躍が期待されています。2017年に制定された『外国人技能実習法』により、『優良認定』資格を受けた会社は、実習期間を3年から5年に延長できるようになりました。優良認定資格取得のハードルは高いですが実習生とともにチャレンジしていきたいと思えます。

シニア社員の職場の創出と活躍支援の取り組み

2017年度は71名の方が定年を迎えました。前年度同様完全に退職される方は約10%で、90%の方は60歳以降も当社で引き

続き働いています。(グループ外への移籍者も含む)定年到達者は今後も増え続け、4年後には旭化成ホームズグループ内の職場で働く再雇用者の数も400名を超え、さらにその後も増え続けることが想定されます。全社で取り組み中の働き方改革を推進するうえでも、若手、中堅社員をサポートするシニア社員の活躍が今後ますます期待されます。人事部・キャリアクリエイト室ではシニア社員の職場を確保し、いきいきと働き続けるための支援を行っています。その取り組みの一環として「50歳キャリア研修(別名腕まくり研修)」を実施しており、2017年度も107名の社員が受講しました。2013年度スタートのこの研修、5年間で約750名の社員が受講し、それぞれがシニアのステージへ向けてありたい姿を描き、目標を設定し、腕まくりしてもらいました。

再雇用者数の推移(想定)



50歳キャリア研修 開催数と受講者数 (53歳以上対象の公開講座 参加者数も含む)

年度	開催回数	受講者数
2013年度	4回	87名
2014年度	5回	113名
2015年度	11回	293名
2016年度	7回	156名
2017年度	5回	107名

インターンシップの受け入れ

当社は、全国の大学生・大学院生を対象に、現場の就業体験を通して、具体的な仕事や住宅事業の社会的意義の理解を深めていただくことを目的としてインターンシップの受け入れを行っています。2017年度は、夏と冬に技術職および営業職対象のインターンシップを実施し、合計400名以上の参加をいただきました。インターンシップ参加者は各支店に出向き、営業の接客体験やモデルハウス見学、設計の仕事を体験する設計実習を体験しました。また実際にヘーベルハウスにお住まいのお客様からお話を伺う入居宅訪問を行いました。

このような体験を通して、当社の仕事や社会人として働くことの意義を肌で感じ取ってもらうことを期待しています。



旭化成ホームズグループは、地域社会の皆様とのコミュニケーションを深め、地域の発展に貢献する企業であり続けます。

自然に触れる

旭化成ホームズおよび旭化成では、生物多様性を多くの方々に体験していただく取り組みとして、地域のお子さんたちが楽しめる自然観察会や虫さがしを行っています。

● はじめてのエコトープ観察 in 旭化成

2018年4月21日に、富士市子どもエコクラブ春の交流会『はじめてのエコトープ観察会 in 旭化成』が開催されました。市内4つの子どもエコクラブから小学生と保護者の方32名、富士市職員3名、富士市環境アドバイザー4名の先生が参加され、楽しく自然観察をしました。

さまざまな春の花が咲く中、カントウタンポポとセイヨウタンポポの見分け方や、在来種と外来種の存在などを学びました。植物採集の途中で、爪楊枝を使ったアオキの葉へのお絵かき、ストローを使ったお花の風車づくり、葉っぱの楽器など、アドバイザーの先生から植物を使用したいろいろな遊びを教えてくださいました。水生生物の観察では、ホタルの幼虫がカワニナを捕食しているところを観察することができました。

今後も、地域の皆様が「あさひ・いのちの森」で生物多様性を体験し、楽しく学ぶ場として活用していくことを推進します。



交流会



植物採取

● 虫さがしイベント

2018年6月9日には、静岡県「ふじのくに地球環境史ミュージアム」の協力のもと「あさひ・いのちの森」DE虫さがし」のイベントを開催しました。富士市内の幼稚園に案内を配布、26組92名のお子さんと保護者の方が参加しました。

虫かごと大きな捕虫網を準備し、ミュージアムの先生に虫の捕まえ方や観察の仕方を教えていただきながら観察を行いました。もともとは600種類以上の生き物が生息している森であるため、前日の雷雨で種類が少なかったにもかかわらず、珍しい昆虫を観ることができました。参加者には小さいお子さんも多く、夢中になって虫さがしをしていました。参加者からは「捕まえた虫の名前をすぐ教えてもらえてよかった」、「これまで虫に触れなかったのに触れるようになった」といった、うれしい感想もいただきました。

観察会終了後は、隣接するヘーベルハウスの最新モデルハウスが建つ「富士コレクション」でケーキバイキングを用意しました。モデルハウスでは保護者の方に「あさひ・いのちの森」の10年間の調査から得た住宅の外構植栽提案である「まちもり計画・まちもりポット」とコンピューターシミュレーションによる住環境シミュレーション「ARIOS」をご案内し、自然と人間の共生や生物多様性の重要性を感じていただくこともできました。私たちが「あさひ・いのちの森」から学んだ環境共生を多くの方に紹介できるよう、これからもさまざまなイベントを計画していきます。



虫さがしイベント

若い技術者を応援する

旭化成ホームズは、若い技術者たちとのつながりを大切にしています。2017年度は、早稲田大学・芝浦工業大学とともに、鉄骨工業化住宅のあらたなりノベーションに挑戦しました。

● エネマネハウス2017

エネマネハウスは経済産業省資源エネルギー庁の事業の一環として実施されているコンペティションであり、住宅のネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)による新しい価値の創出や、質の高い生活を実現する住まいの提案が求められています。これは、大学生が主体となる競技であり、米国エネルギー省が始めた、省エネ技術の十種競技になぞらえた「ソーラー・デカスロン」が基となっています。2017年度のコンセプトは「LIFE DESIGN INNOVATION」～住まい・コミュニティに多様な新しい価値を創造する～というものでした。

当社は2014年に共同参加した「早稲田大学」、2015年に共同参加した「芝浦工業大学」の2大学合同チームである「早稲田大学・芝浦工業大学」のメンバーとして参加しました。既存工業化住宅のリノベーションZEHをテーマとし、いまだ有効な改修が進まずに大量のストック住宅に対して、新たな活用方法を示す提案を行いました。

軽量鉄骨のピンブレース構造^{*1}をベースとした築30年相当のヘーベルハウスを題材に、数十年経過しても衰えない鉄骨やALC版などの既存スケルトン部分はそのまま活用し、生活空間の環境を潜熱蓄熱材や真空断熱材によって整えました。さらに住宅設備に関してIoTなどの最新技術を取り込むことによって、一度役目を終えた住宅に新たな価値を与えています。

また、一部外壁と床材には脱炭素社会を達成する材料として期待されているW.ALC(Wood Attain Low Carbon)も前回大会同様に採用しています。



エネマネハウスの内部

エネマネハウスの優劣は、室内環境、建物内の温湿度、CO₂濃度や実際に使用したエネルギー量などを総合評価し決定します。表彰結果として、本チームは2賞を受賞。総合評価は「優秀賞」を獲得し、改修が難しいとされる鉄骨工業化住宅のリノベーションというテーマに果敢に挑戦したことが評価され、「チャレンジ賞」も受賞しました。



竣工時の外観写真

Voice

新しい住宅改修へのチャレンジ

早稲田大学 創造理工学部 建築学科

田辺 新一 教授



工業化住宅は全国に約200万棟あります。空き家問題が深刻化している中でストックの活用は大きな課題ですが、構造的には大丈夫な工業化住宅が法規制の煩雑さから改修を断念する事例が発生しています。一方、当時の多くの住宅は旧断熱基準で建設されているため、現在の要求レベルには達しない寒い住宅になってしまっています。40年前につくられた当時の一般的な住宅モデルを設定しシミュレーションを行いました。お風呂や脱衣室の温度は10℃を切るという結果が出てしまいました。日本で高齢者が増えていく中、快適で健康的な住まいを提供することが大きな課題です。学生を中心として快適性・健康性を確保した上で省エネを図り、意匠的にも心地の良い住宅に再生することに旭化成ホームズと挑戦しました。

*1 接合部をボルト接合として、ブレースと呼ばれる斜め材で補強する構造

継続する力

小中学生や地域への教育・啓発活動、地域の大勢の方々に参加するイベント、ボランティア活動など、多くの取り組みが長年にわたって継続され、成果が積み重ねられています。

● 子供向けの環境意識の啓発活動

当社は、将来を担う子供たちが環境への意識を高めるために、さまざまな啓発活動を行っています。

2017年9月24日に有楽町朝日ホールで行われた「かんきょう1日学校」では、住宅総合技術研究所の研究員が講師を務め、約110人の小学生に向けて、家庭でできる地球温暖化対策について授業を行いました。

また、首都圏の小学校を対象に、環境についての出張授業も毎年実施しています。2017年度は、11月16日に三郷市立前谷小学校、11月24日に中野区立鷺宮小学校へ訪問しました。子供たちは、家の模型やサーモカメラを使った実験に、興味を持って参加していました。

これらは、朝日新聞社の小学生向け環境教育プロジェクト「朝日地球教室」のイベントで、旭化成グループは2008年度から協賛を続けています。

2017年度は、朝日地球教室10周年記念で、初めてテレビ放映がされ、より多くの子供たちへ環境に興味を持ってもらう機会となりました。



出張授業

● 「理工チャレンジ(リコチャレ)」に参画

旭化成グループは、内閣府が中心となって推進している理工系女性人材育成のための「理工チャレンジ(リコチャレ)」に賛同し、2015年から関連するイベントを開催してきました。グループの一員として参画してきた当社も、2017年8月に旭化成富士支社にて開催された研究所見学ツアー「リケジョ」のシゴト、知ろう、触れよう」に住宅総合技術研究所の女性研究員4名が参加しました。当日はまず旭化成グループの事業内容、富士支社での研究内容の説明を参加者全員に行った後、「科学・分析のシゴト」コースと「住まいのシゴト」コースに分かれ、それぞれの施設見学、および研究員との交流を深めました。当社が担当する「住まいのシゴト」コースには11名の女子高校生と保護者8名が参加し、まず住宅総合技術研究所を見学してもらい、ワークショップで住宅の温熱環境について学んでもらいました。続く

モデルハウスでの研究員との懇談では受験勉強に関することから仕事のやりがい、キャリアパスについてなどさまざまな質問が飛び交う活発な意見交換が行われました。当社はリコチャレへの参画を通し、今後も理工系への進学・就職を目指す女子学生を支援し、企業における女性従業員の一層の活躍を推進していきたいと考えています。



モデルハウスでの交流会

● 地元中学生に向けた職場体験学習会

毎年、住宅総合技術研究所が在在する富士市内の中学生に向けた職場体験学習を開催しています。2017年は田子浦中学校二年生20名を対象に「快適な家づくり」と「地震に負けない家」の2テーマを実施しました。

「快適な家づくり」では、夏と冬で2グループに分かれ、断熱や遮熱の性能の異なる3種類の20cm立方体の箱を家に見立て、太陽を模した電球の熱を与えて昼と夜を再現し、箱の内部の温度変化を実際に測定してもらいました。そして、各グループの結果をもとに、性能の違いによる昼と夜の温度の違いを確認し、暑さ、寒さの対策について一緒に考えました。

「地震に負けない家」では地震が起きても倒れない家にするための方法を説明し、その後、家の柱、梁に見立てたストローをクリップで止めただけの柔らかい立方体フレームに紙テープとセロテープで補強してもらい、小型の振動試験機に載せて揺らしました。テープを自由に使いながら「地震に負けない家」について考えてもらい、家が倒れないために必要な対策を実感してもらいました。

2つの体験学習から、家を建てるという仕事の一面「安心で快適な家の研究」を学んでもらいました。



職場体験学習会の様子

● 常葉大学における寄付講義運営

旭化成(株)富士支社は、毎年常葉大学にて「旭化成講座」を開講しており、社員が講師を務めています。その中で2017年度、当社は「住宅の耐震技術」と「住宅の省エネルギーとパッシブデザイン」の2講義を行いました。

「住宅の耐震技術」では、卓上の簡易振動台と模型を使って、地震による地盤の揺れと建物の揺れの関係や、制振(震)・免震構造の仕組みと効果について講義しました。

「住宅の省エネルギーとパッシブデザイン」では、サーモカメラを使って遮熱ガラスの効果を見ていただく等、省エネ技術や自然のめぐみを手取り取り取り入れたパッシブデザインについて講義し、日常生活で取り入れられる手法も学びました。

毎年好評いただいております。今年度も学生だけでなく、一般市民の方にも多数ご参加いただきました。



● 「EcoゾウさんClub」の活動

当社は2002年より、ウェブサイト「EcoゾウさんClub」を通して、ご家族が楽しみながら省エネルギーに取り組む暮らしの支援活動を行っています。この活動は開始から15年が経過し、会員数は4,650家族を超えました。

「EcoゾウさんClub」では、簡単な入力で、電気、ガス、水道、ガソリン、灯油、ゴミに関わる我が家の二酸化炭素排出量の推移を「見える化」することができます。また省エネ診断のほか、冷暖房や給湯などの用途別消費量を旭化成独自の推計方法を用いてグラフ化したり、家族構成別のランキングを表示したりするなどのコンテンツを充実させ、利用者が楽しみながら一緒に省エネの工夫を話し合う場として活用いただいております。

会員の声を集めたEcoゾウさん通信(毎月発行)は、会員相互の情報交換の場となっています。



● 旭化成富士支社主催サマーフェスタ

地域交流の一環として、毎年8月に旭化成富士支社主催のサマーフェスタを開催しています。旭化成ホームズをはじめ、旭化成富士支社に事務所や工場がある旭化成グループのほぼすべての企業が企画・運営・出店などで参加しています。

近隣の方も楽しみにしている富士地区の一大イベントで、2017年は8月26日(土曜)に開催され、天候にも恵まれて3,747名のご来場がありました。

住宅総合技術研究所でも、クレープ店や金魚すくい店などを出店し、毎年大盛況となっています。

メインステージでは、社員によるバンド演奏や演芸大会、キャンペーンモデルの方が司会をする大抽選会などが催されます。そして最後は打ち上げ

花火で閉幕となります。長く続く地域交流のイベントとして今後も積極的に参加をしていきます。



サマーフェスタ

● 地域ネットワーク活動への参画(旭化成住工)

琵琶湖岸に生息するヨシ(葦)には水を浄化する力があり、また、湖魚の産卵場所になるなど、琵琶湖の生態系保全に大きく寄与していますが、冬の時期に枯れたヨシを刈り取らないと翌年に元気なヨシが育たないため、毎年、行政や企業、市民団体などがボランティアでヨシ刈りを行っています。

滋賀工場は2009年より、京セラ滋賀蒲生工場やコクヨ工業滋賀、たねやなどの地元企業がつくる地域活動「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」に参画し、2017年12月2日の東近江市 伊庭内湖、および2018年2月24日の近江八幡市 西の湖で行われたヨシ刈りボランティアに、従業員がネットワークのメンバーとしてそれぞれ参加しました。

刈り取ったヨシは紙の原料としてPPC用紙や名刺などに加工され、これを全社で使用することで天然資源の循環にも貢献しています。

また、新たな取り組みとして、11月3日に野洲市菟浦浜で行われた、ヨシ原の再生を目的とするヨシ植えボランティア(公益財団法人淡海環境保全財団主催)に参加しました。

ヨシ植え活動は、琵琶湖のヨシ保全活動のひとつとして、ヨシ刈りとともに今後も継続して取り組む予定です。



いばないこ 伊庭内湖(東近江市) ヨシ刈りボランティア活動風景

「環境・社会報告書2018」に対する第三者意見報告書

1. レビューの概要と観点

貴社の「環境・社会報告書2018」について、記載情報が事実と相違ないことを前提として、環境・社会活動に関する特集内容及び策定された目標と実績の自己評価を中心に①住宅の長寿命化(高強度・高耐久性、暮らしの変化への対応、良好なストック形成)②住宅のライフサイクルにおける環境負荷低減(省エネ、創エネ、省資源、3R)③住まい手や社会とのコミュニケーション形成(自然共生、環境教育、価値共創、社会貢献)という観点からレビューを実施しました。このレビューに当たっては、資源循環を考慮した建築生産システム等について長年研究されてきた角田誠氏(首都大学東京教授)に、建築・環境技術面からのアドバイスを頂戴しています。

2. 意見(レビュー結果)

環境・社会報告書2018では、「家は建てたあとが大事なんだ。」という言葉のもとに進められている、進化するロングライフ住宅の取り組み、都市の新たなコミュニティ形成につながる高付加価値賃貸住宅の提供、持続可能な都市をつくるロングライフ住宅の技術などについて特集・紹介しています。また、今回の報告書のなかで、国連が定めた持続可能な開発目標SDGsの理念につながる、気候変動対応、廃棄物削減、生物多様性保全の各取り組みによる技術開発が示されています。さらに、居住する人々の暮らしや地域との連動によるコミュニティ形成といったソフト的な要素に対する技術支援を加えることで、現在の住宅・住環境をめぐる重要なテーマとして位置づけており、これらハード・ソフト両面からの取り組みの継続が期待されます。

環境に関する取り組みとしては、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の構築に向けて設定された中期目標に対して、中間年となる2017年度では12項目のうち9項目について達成(ほぼ達成)し、着実に進捗しているものと認められます。2018年度は未達成項目へのさらなる取り組みの実行とともに、目標達成結果を継続させるための課題抽出、さらには2020年度以降の新たな中期目標の方針策定へと結びつけることが望まれます。

これら3つの社会の実現のための取り組みの中から、環境配慮住宅・ロングライフ住宅によるCO₂削減、省資源化、生物多様性に配慮した住まいづくりの観点で、2017年度の特に優れた内容について特記します。

- 住まいの断熱性能や設備効率の向上(省エネ)、太陽光発電システムの設置(創エネ)、エネルギーの状態を可視化するHEMSの組み合わせによるネット・ゼロ・エネルギーハウス(ZEH)では、耐久型断熱(断熱性能が高いヘーベルと高性能断熱材とを一体化させて構造躯体を包み込んだ構造)を採用することで、温暖化対策へ貢献しています。この結果、2017年度においてはZEH普及の目標値18%を大きく上回る25%を達成したことは評価できます。今後の他部位での断熱性能向上やシミュレーションツールARIOSの適用による断熱効果の見える化など、さらなるZEHの普及展開を期待します。
- 既存住宅仲介事業「ストックヘーベルハウス」の展開を受け、既存住宅の長寿命化・高耐用化を実現する技術が、環境負荷低減に着実に貢献していることも高く評価できます。これは、セカンドオーナーへの引き継ぎも延びていること、また安心R住宅制度事業の登録企業としてストック住宅の適正な市場形成に貢献していること、さらに、内装の一新に加え断熱性能の向上も達成する「リメイク」も引き続き好評であることなどが、大きな要因です。
- 工場における資源循環の取り組みに加え、施工部門では施工現場における資材の「適正搬入」、発生した廃棄物の「徹底分別」を行うことにより廃棄物削減に取り組んでおり、全社的な活動であるAHS-one(アースワン)活動は高く評価できます。また、「モデル現場活動」において削減見込みのある品目を取り上げ、特に「石膏ボードのプレカット」について効果的な成果を出されたことは、評価されます。
- 自然との共生を目指した「あさひ・いのちの森」でのこれまでの10年間の自然再生の取り組みの成果として、2017年度は、「10周年記念誌」発行、「SEGESそだてる緑部門Stage2」認定、更には「あさひ・いのちの森」育むプロジェクトが発足されています。また、滋賀工場内の「ピオトープ」の1/5スケールの溜池の再現、コンテナピオトープの設置等、継続した活動も続けられており、自然との共生を目指した企業の取り組みとして高く評価でき、今後のさらなる展開を期待します。

3. 今回の環境・社会報告書の総合評価と今後への期待

環境・社会報告書2018では、これまでの貴社の長年の取り組みの成果を踏まえ、現在の住宅・住環境をめぐる重要な課題に展開する取り組みを特集するとともに、貴社が設定した環境に関する目標の達成に向けて着実に取り組みが進められていることが報告されています。今後とも社会とのコミュニケーション形成を深めつつ、着実に成果を上げていくことを期待します。

一般財団法人 日本建築センター
理事長



橋本 公博

首都大学東京 都市環境学部
建築都市コース教授



角田 誠

第三者意見を受けて

環境・渉外技術部長
武藤 一巳



橋本様、角田様には、当社グループの環境・社会活動に対して貴重なご意見をいただき、心より御礼申し上げます。当社のこれまでの社会課題への取り組みを含め、今回特集で取り上げた、ロングライフ住宅戦略に関わる事業の進化、都市の新たなコミュニティを形成する高付加価値賃貸住宅、持続可能な都市をつくるロングライフ住宅技術

などの様々な取り組みを、全世界の目標であるSDGsの理念にもつながる重要なテーマとして、その継続と推進に多大な期待をいただきました。そのことに感謝すると共に、責任の重さを肝に銘じてこれからも真摯に取り組んでいく所存です。また、自然との共生を目指した活動として昨年も評価いただいた「あさひ・いのちの森」に加え、滋賀工場内のピオトープの活動などについても高い評価をいただきました。そこで得た知見を社会とのコミュニケーションや「まちなり」計画といった事業活動を通じて展開していくことが大切であることを再認識しました。私たちは、当社グループのCSR方針に基づき、ロングライフ住宅を進化させ、持続可能な社会の形成に貢献することで、人びとに必要とされ、感謝され、愛され続ける企業を目指します。



独立した第三者保証報告書

2018年8月29日

旭化成ホームズ株式会社

代表取締役社長 川畑 文俊 殿

デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社
東京都千代田区丸の内三丁目3番1号

代表取締役

杉山 雅彦

デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社(以下「当社」という。)は、旭化成ホームズ株式会社(以下「会社」という。)が作成した「環境・社会報告書2018」(以下「報告書」という。)P.24~P.26に記載されている2017年度の「旭化成ホームズグループと環境とのかかわり」の開発・設計、工場生産、輸送、施工、居住、解体におけるINPUT(エネルギー、資材)及びOUTPUT(CO₂、廃棄物)、並びにLCA・CO₂削減貢献度(以下「環境定量情報」という。)について、限定的保証業務を実施した。

会社の責任

会社は、会社が採用した算定及び報告の基準(報告書P.5及び各保証対象に注記されている。)に準拠して環境定量情報を作成する責任を負っている。また、CO₂の算定は、排出係数と数値データの決定に利用される科学的知識が不完全である等の理由により、固有の不確実性の影響下にある。

当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく、国際会計士倫理基準審議会の「職業会計士の倫理規程」が定める独立性及びその他の要件を遵守した。また、当社は、国際品質管理基準第1号「財務諸表の監査及びレビュー並びにその他の保証及び関連サービス業務を行う事務所の品質管理」に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

当社の責任

当社の責任は、当社が実施した手続及び当社が入手した証拠に基づいて、環境定量情報に対する限定的保証の結論を表明することにある。当社は、「国際保証業務基準3000 過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(国際監査・保証基準審議会)、「国際保証業務基準3410 温室効果ガス報告に対する保証業務」(国際監査・保証基準審議会)及び「サステナビリティ情報審査実務指針」(サステナビリティ情報審査協会)に準拠して、限定的保証業務を実施した。

当社が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、質問、プロセスの観察、文書の閲覧、分析的手続、算定方法と報告方針の適切性の検討、報告書の基礎となる記録との照合又は調整、及び以下を含んでいる。

- ・ 会社の見積り方法が、適切であり、一貫して適用されていたかどうかを評価した。ただし、手続には見積りの基礎となったデータのテスト又は見積りの再実施を含めていない。
- ・ データの網羅性、データ収集方法、原始データ及び現場に適用される仮定を評価するため、事業所の現地調査を実施した。

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務に対する手続と比べて、その種類と実施時期が異なり、その実施範囲は狭い。その結果、当社が実施した限定的保証業務で得た保証水準は、合理的保証業務を実施したとすれば得られたであろう保証水準ほどには高くない。

限定的保証の結論

当社が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、環境定量情報が、会社が採用した算定及び報告の基準に準拠して作成されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

以上

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited